

海軍公報 (部内限) 第四千五百三十四號

昭和十八年十一月六日(土)
海軍大臣官房

○令達

官房經機密第七九九號

當分ノ間艦船部隊ニ勤務スル傭人ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニハ雇員傭人規則第十三條ノ規定ニ依ル制限ニ拘ラズ一時所管鎮守府海兵團ノ定員外トシテ轉傭シ又ハ當該艦船部隊ノ定員外トシテ取扱ヒ之ガ代員ヲ補充スルコトヲ得

一 乗組艦船沈没其ノ他ノ事由ニ依リ所轄ナキニ至リタルトキ

二 戰傷病ニ依リ療養ヲ命ゼラレ當分快復ノ見込ナキトキ(當該艦船部隊ニテ急速代員ノ補充ヲ要スル場合ニ限ル)

前項ノ規定ニ依リ定員外傭人ヲ保有スルニ至リタルトキハ其ノ都度其ノ職種、氏名及給料ヲ海軍省經理局長ニ通報スルモノトス

昭和十七年官房機密第八五四九號ハ之ヲ廢止ス

○通牒

昭和十八年十一月五日

海軍大臣



經豫機密第三號ノ九六

昭和十八年十一月五日

海軍省經理局長

關係各支出官、資金前渡官吏殿

日本銀行代理店設置ノ件通知

國庫事務ヲ取扱フ日本銀行代理店ヲ左記ニ設置シ夫々之ガ事務ヲ取扱フコトト相成候

記

小スンダ列島チモール島「クローバン」

緬甸國「メイミョウ」

軍需衣第一五七號

昭和十八年十一月五日

海軍公報 (部内限) 第四千五百三十四號

昭和十八年十一月六日

一一九一

各廳長殿

海軍省軍需局長

准士官以上防暑作業衣袴貸與ノ件通知

昭和十八年軍需衣第六號(同年一月十三日海軍公報(部内限))ヲ以テ首題物品ノ貸與ハ昭和十八年度限り廢止豫定ノ旨内報致置候處資材其ノ他ノ關係上當分ノ間之ヲ延期シ規定通貸與ノコトト相成候條了知相成度
追テ内地ヨリ前線ヘノ赴任者ニ在リテハ新様式ノ防暑服(近ク公布セラルル豫定)ヲ成ルベク調製セシメラルル様指導相成度

軍需衣第一五八號

昭和十八年十一月五日

海軍省軍需局長
海軍省經理局長

關係各廳長殿

死體ニ附著スベキ被服ニ關スル件照會

下士官及兵其ノ他死亡ノ場合ニ於ケル首題ノ件ニ關シテハ海軍給與令施行細則第九十二條及同第十三表ニ規定セラレ居候處必要アルトキハ同條但書ニ依ル被服物品ノ一部又ハ單長白衣ヲ棄却燒却スベキモノトシテ死體ニ附著セシメ差支無之候

○辭令

海軍軍醫中將 保利 信明
海軍武官任用委員ヲ命ス
海軍生徒採用試驗常置委員ヲ命ス
海軍武功調査委員ヲ命ス
海軍規格審議會議員ヲ命ス
海軍增進對策調査委員會委員ヲ命ス(附海軍省)

○雜款

○書類配付ニ關スル件照會
北東方面艦隊司令部宛及第十二航空艦隊司令部宛ノ書類ヲ別個ニ配付サルル向有之候モ右ハ其ノ必要ナキニ付可然取計相成度
(北東方面艦隊司令部)
(第十二航空艦隊司令部)
○事務開始
岡山海軍航空隊(假稱)設立準備事務所ハ十月十日呉海軍航空隊内ニ於テ事務ヲ開始セリ
○本日普通公報發行セズ

海軍公報

(部内限) 第四千五百三十五號

昭和十八年十一月八日(月)

海軍大臣官房



○令 達

官房經機密第八〇五號

當分ノ間戰地ニ在ル海軍ノ各部ニ屬スル囑託者、備人代員、人夫等ニ對シテハ左ノ各號ニ依リ賞與ヲ支給スルコトヲ得

昭和十八年十一月六日

海軍大臣

一 受給者ノ範圍

別ニ定ムル所ニ依リ年末賞與、年度末賞與等ノ支給ヲ受クル者ヲ除キ左ニ該當スルモノトス

(イ) 昭和十七年官房第一七一六號ニ依ル人夫ニシテ常備人夫タルモノ

(ロ) 昭和十七年官房第三〇七一號ニ依ル囑託者及備人代員

(ハ) 昭和十七年官房第七三二一號ニ依ル常備人夫

(ニ) 昭和十八年官房備機密第五〇號ニ依ル臨時備人

支給時期

一 會計年度ヲ通ジ一回又ハ二回トシ所屬長官ノ定ムル所ニ依ル

三 支給金額

(イ) 一會計年度ヲ通ジ一人ニ付基本給料一月分(日給者ハ三十日分)以内トス

(ロ) 所屬長官ハ現地ニ於ケル陸軍其ノ他一般給與ノ狀況ヲ勘案シ適宜給否ヲ決定スルト共ニ勤續期間、勤怠、給料等ニ應ジ適當ナル支給標準ヲ定ムルモノトス

四 支辨科目

各基本給支辨科目ニ依ル

五 其ノ他

本令ニ依ル賞與ヲ支給シタルトキハ其ノ都度月給者及日給者ニ區分シ支給標準、支給員數及支給金額ヲ海軍省經理局長ニ通報スルモノトス

官房經機密第八〇六號

昭和十七年官房機密第四一四六號中左ノ通改正ス

海軍公報(部内限) 第四千五百三十五號

昭和十八年十一月八日

一一九三

昭和十八年十一月六日

海軍大臣

第一條中「本邦及南方占領地域(以下現地ト稱ス)」ヲ
「本邦(内南洋ヲ除ク)並ニ内南洋及南方占領地域(以
下現地ト稱ス)」ニ改ム
第二條中表ヲ左ノ如ク改ム

特設經理部(支部)長	席主計科士官 含ム)勤務ノ首 所、州知事應ヲ 部(支部、出張 民政府又ハ民政	經理局長 本	契約擔任官
地	現	現	區
其ノ他ノ經理部(支部)	其ノ他ノ經理部(支部)所在	邦	域
現地間交流	ル賣拂	輸出物資ノ本邦ニ於ケル取得 輸入物資ノ本邦ニ於ケル賣拂	契約事項

其ノ地勤務ノ特設經理部首席部員	所在地	物資ノ取得及賣拂
	其ノ他ノ地	

(参照) 昭和十七年官房機密第四一四六號ハ軍需品以外ノ對南方交流物資ノ取得及賣拂手續ノ件ナリ(機密會計法規集四〇頁)

○通牒

軍務一機密第八七八號
昭和十八年十一月四日

海軍省軍務局長

關係各廳長殿

雜役船使用實績報告ニ關スル件通知
昭和十四年軍務一機密第一四一號照會ニ依ル首題使用
實績ノ報告ハ廢止セラレ候

(參考)

軍務一機密第一四一號

昭和十四年四月一日

海軍省軍務局長

關係各廳長殿

雜役船使用實績ニ關スル件照會

雜役船建造(改装)計畫ニ資スル爲當分ノ間昭和十二年一月以降竣工ノ左記雜役船ニ對シ昭和十年內令第六八號艦船使用實績報告規則ニ準ジ其ノ使用實績(毎年十一月一日調)ヲ通知アリ度

但シ本年ニ限リ右使用實績ハ四月一日調及十一月一日調(四月一日通知濟ノモノヲ除ク)トシ通知アリ度

記

救難船、曳船(百吨以上、驅潛艇型、砲艇型及敷設艇型)、飛行機救難船、内火艇(魚雷追跡用及砲艇型)、長官(司令官)艇、特型運貨船、飛行機運搬船、魚雷運搬船、高速魚雷艇、重油船(自走)、揮發油船(自走)、起重機船、浚渫船、岩碎船、浮船渠、測量艇、動力船、消火艇、電纜敷設船、海洋觀測船、冷凍船

經豫機密第四號ノ二三

昭和十八年十一月八日

海軍省經理局長

關係各廳長殿

常備人夫ニ賞與不給ニ關スル件申進

海軍公報(部内限) 第四千五百三十五號

昭和十八年十一月八日

一一九五

今般官房經機密第八〇五號ニ依リ賞與支給ノ件令達相成候處今後常備人夫ニ對シテハ定期一般賞與ヲ支給セラレザル内意ニ付從來常備人夫ニシテ定期賞與ノ支給ヲ受ケタル少數ノ内地人及支那人ハ必要ニ應ジ左記ニ依リ特別措置實施方可然取計相成度

記

- 一 内地人タル常備人夫ハ必要ナル給料ノ改訂ヲ行ヒ定員外トシテ成ルベク雇傭人又ハ工員ニ身分ヲ變更スルコト
- 二 支那人タル常備人夫ハ定員ノ範圍内ニテ大正十四年官房第四八〇號ニ依ル傭人代員ト爲シ差支ナキモ必要ナル給料ノ改訂ヲ行ヒ成ルベク之ヲ常備人夫ノ儘トスルコト
- 三 前各號ニ依リ特別措置ヲ行ヒタルトキハ職種、氏名及給料(新、舊)ヲ海軍省經理局長ニ通報スルコト

○ 辭令

(各通) 千六百五拾圓 谷口 清治
千四百七拾圓 田中 淑造

徵用中自今年額(各頭書ノ通)ヲ給シ部内限奏任官

待遇トス(五月海軍省)

阿江 勇

徵用中年額千參百圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス

(九月同)

大湊海軍施設部徵用員 豊村 清

同 仁尾 博

(各通) 同 三輪 正次

同 山下 亮二

舞鶴海軍施設部ニ配屬ス

同 梶浦 弘

佐世保海軍施設部ニ配屬ス

同 立木 十六

第百二海軍施設部ニ配屬ス

(各通) 千參百圓 庄司 憲太郎

千貳拾圓 小岩 正男

徵用中自今年額(各頭書ノ通)ヲ給シ部内限奏任官待遇トス(以上五月同)

内務事務官 岩永 賢一

第八艦隊司令部附ヲ免ス(十一月同)

臺灣總督府州事務官 矢野 謙三

海南警備府附ヲ免ス(十一月同)

海軍大將子爵 加藤 隆義

海軍中將 澁谷 隆太郎

同 保科 善四郎

海軍少將 澤田 虎夫

同 足立 助藏

海軍主計少將 横尾 石夫

海軍大佐 松尾 實

同 堀内 茂忠

同 山本 善雄

同 秋重 實惠

同 今田 乾吉

海軍中佐 三木 榮助

同 君嶋 武彦

同 安増 昇

同 加藤 武夫

同 岡本 孝一

海軍少佐 古田 豊作

海軍主計中佐 中野 英夫

海軍技術大佐 佐々川 清

海軍技師 本村 由三

(各通)

(限 内 部)

海軍公報 (部内限) 第四千五百三十七號

昭和十八年十一月十日(水)

海軍大臣官房

○ 令 達

官房軍第一二七〇號
 第一百海軍工作部ニテ建造保管中ノ九米内火艇三隻ヲ
 雜役船ニ編入シ其ノ公稱番號、船種、所屬ヲ左ノ通定
 ム

昭和十八年十一月九日

海軍大臣

公稱番號	船種	所屬	定數別	記事
第二六六號	内火艇 (九米)	佐世保海軍港 務部	臨時附屬	
第二六九號	同	第一南遣艦隊 司令部(第十 三根據地隊 用)供用		
第二六〇號	同	(同)		

官房人機密第七六八號

當分ノ間領守府司令長官ハ在籍ノ特務士官、准士官、
 下士官及兵中通信諜報業務ニ從事シ外信傍受又ハ方位

海軍公報 (部内限) 第四千五百三十七號

昭和十八年十一月十日

一一〇一

測定技術優秀ニシテ將來該勤務ニ從事セシムルヲ適當
 ト認ムル者ニ就キ機宜特務士官及准士官ニ在リテハ高
 等科電信術ノ特信班ヲ、下士官及兵ニ在リテハ其ノ特
 技章ノ種別ニ從ヒ高等科電信術練習生又ハ普通科電信
 術練習生ノ特信班ヲ專修シタル者ト看做スコトヲ得
 昭和十八年十一月九日

海軍大臣

官房教第一〇〇號ノ三

左ノ各號ニ依リ官房教第一〇〇號ノ二ニ依ル體育講習
 フ施行ス

所屬長官ハ第三號ノ講習員ヲ講習開始前日迄ニ横須賀
 海軍砲術學校ニ派遣スルト共ニ其ノ官階氏名ヲ講習開
 始三日前迄ニ横須賀海軍砲術學校長ニ通報スベシ

昭和十八年十一月九日

海軍大臣

一 講習場所

横須賀海軍砲術學校

二 講習期間

自昭和十八年十一月二十日
至昭和十八年十二月十九日

三 講習員

派遣先	員數		記事
	准士官 <small>(教授、助 手、囑託 ヲ含ム)</small>	下士官	
海軍兵學校	二	一〇	講習員數ハ 狀況ニ依リ 適宜増減ス ルコトヲ得
海軍機關學校	一	五	
海軍經理學校	一	三	
各術科學校	一	三	
各海兵團	一	五	
各練習航空隊	一	三	
各海軍病院 練習部		一	横砲校 ヲ除ク

四 講習要領

主トシテ體操ニ付實施スルモノトス

五 旅費

講習員ノ旅費ハ昭和十八年官房經第七號ニ依リ請求
ヲ俟テ別途配布ス

官房艦機密第三四五號ノ二

昭和十八年官房艦機密第一三四五號別冊艦船造修規則
及兵器造修規則ニ依ル諸公試、諸試驗中一部省略實施
要領中左ノ通改正ス

昭和十八年十一月九日

海軍大臣

兵器造修規則ノ部第四號魚雷兵裝公試(イ)中「深々
度冷走發射」ヲ「水上冷走發射」ニ改ム

官房艦機密第五六四一號

戰時内國部外製造所ニ於テ建造スル潛水艦ノ諸公試
驗ハ艦船造修規則第九十七條第一項第一號、兵器造修
規則第五十四條第二號及大正十四年達第九號ノ規定ニ
拘ラズ左ノ各號ニ依リ實施スルモノトス但シ本方式へ
ノ移行ハ各建造所ノ實情ニ即シ逐次之ヲ實施スルコト
ヲ得

昭和十八年十一月九日

海軍大臣



一 潜水艦ノ指揮ハ艦裝員長之ヲ行ヒ當該建造所ノ指定スル操縦主任ハ艦裝員長ノ輔佐ニ任ズルモノトス尙情況之ヲ必要ト認メタル場合又ハ艦裝員長事故ノ爲操縦シ得ザル場合ハ操縦主任自ラ之ニ當ルモノトス

二 兵器、機關其ノ他諸裝置等ノ操縦取扱ハ極力艦裝員及艦裝員附ヲシテ之ニ當ラシメ當該建造所係員之ヲ指導輔佐スルヲ建前トス但シ要スレバ當該建造所係員ヲ主トシ艦裝員及艦裝員附ヲ副トシテ配置スルコトヲ得

三 諸公試、同豫行運轉ノ場合總乘艦者數ハ要スレバ潜水艦定員ノ二・二倍以內トスルコトヲ得

四 遭難其ノ他事故發生ノ場合ニ於ケル處置要領左ノ如シ

- (イ) 事故發生原因ニ對スル官責任ノ有無ノ判定ハ損害輕微ノモノ(死亡者無ク負傷者ノミノ場合又ハ損害見込額概ネ五萬圓程度以下ノ場合)ニ付テハ所在海軍監督長(首席海軍監督官)ノ認定ニ依ルモノトシ然ラザルモノニ付テハ別ニ定ムル事故調査委員會ノ決定ニ依ルモノトス
- (ロ) 責任官ニ在リト認定セラレタル場合ハ左ノ各號

ニ依リ官ノ負擔ヲ以テ損害補償及慰藉ヲ行フモノトス

(一) 人員

(1) 死傷者ニ對スル慰藉ハ業務死傷者ニ對スル當該建造所ノ給與額ノ範圍内ニ於テ官ノ適當ト認メタル金額ヲ以テス

(2) 慰藉金ハ海軍ヨリ建造所ニ支拂ヒ建造所ヨリ其ノ名ニ於テ本人又ハ遺族ニ之ヲ交付スルモノトス

(二) 船體、兵器、機關其ノ他

船體、兵器、機關其ノ他物件ノ滅失、毀損ニ對スル補償ハ損害(建造保險ノ填補金アル場合ハ其ノ超過額)ノ全額ノ範圍内ニ於テ官ノ査定スル金額ヲ以テス

(三) 契約擔任官損害補償及慰藉ノ金額決定ニ當リテハ一艦毎ニ一括海軍大臣ノ決裁ヲ經ルモノトス

○ 通 牒

軍務第二二三號

昭和十八年十一月九日

海軍公報(部内限)第四千五百三十七號

昭和十八年十一月十日

一一〇三

海軍省軍務局長

關係各廳長殿

水上艦船裝備ノ電路蒸氣管送氣管及水壓管ノ主管別ニ關スル件申進

首題ノ件十一月九日達第二百七十一號ノ通定メラレタル處電路諸管ハ裝備ノ關係上主管別標準ニ依リ難キ部分モ在ルベキニ付此等部分ニ對シテハ各艦船ニ於テ適當ニ主管別ヲ定メ主管別不明ノ爲整理上遺憾ノ點ナキ様可然取計相成度尙兵器簿(電氣兵器)ノ改正間ニ合ハザル場合ハ電氣兵器ノ主管別ハ該主管別標準ニ依リ取扱ノコトニ了知相成度

○ 辭令

永福丸通信局長 阿部 丈夫

囑託 (部内限奏任官待遇) ヲ命シ報酬年額千六百參

拾貳圓ヲ給ス (九個月俸海軍省)

宇治丸機關長 中村 一榮

囑託 (部内限奏任官待遇) ヲ命シ報酬年額千貳百貳

拾四圓ヲ給ス (九個月俸同)

興義丸機關長 田村 政吉

囑託 (部内限奏任官待遇) ヲ命シ報酬年額千四百四

拾圓ヲ給ス

たつ丸機關長 石橋 正治

囑託 (部内限奏任官待遇) ヲ命シ報酬年額千八百參

拾六圓ヲ給ス (以上九個月俸同)

(各通) 貳千五百拾圓 金田 數男

千六百五拾圓 中村 愈

南西方面海軍政府ニ於ケル事務ヲ囑託ス

但シ報酬年額(各頭書ノ通) ヲ給シ部内限奏任官待遇トス

村林 榮一

ジャカルタ在勤海軍武官ノ事務ヲ囑託ス

但シ報酬年額千參百圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス(以上九個月同)

水野 忠一

第二南遣艦隊ニ於ケル事務ヲ囑託ス

但シ報酬年額千八百貳拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス

(各通) 千六百五拾圓 高木 彰

千四百七拾圓 加藤 亮一

南西方面海軍政府ニ於ケル事務ヲ囑託ス

但シ報酬年額(各頭書ノ通) ヲ給シ部内限奏任官

待遇トス(以上^{三十九月}同)

千參百八拾圓

(各通) 千參百貳拾圓

千貳拾圓

微用中年額(各頭書ノ通)ヲ給シ部内限奏任官待遇トス(五^九月同)

重信 饒裁

マカツサル研究所ニ於ケル事務囑託ヲ解ク(三十一^月同)

海軍大佐 中野 實

(幹事)

海軍中佐 柴田 音吉

海軍技術大尉 正木 仁

同 桑原 尚雄

海軍技術師 田邊 一雄

陸海軍(除航空)技術委員會委員ヲ命ス

(各通)

海軍技術大佐 伊藤 庸二

海軍技術少佐 高橋 修一

陸海軍(除航空)技術委員會委員ヲ免ス(八^月同)

八木 健三

鈴木 誠

(各通)

小林 宏志

田中正四
出口 官三

ニユーギニア民政府ニ於ケル事務囑託ヲ解キ海軍省南方政務部ニ於ケル事務ヲ囑託ス(待遇如故)

宇都宮高等農林學校教授 森 本 勇

岐阜高等農林學校教授 松山 三樹男

東京科學博物館學藝官 佐竹 義輔

同 井尻 正二

(各通) 同 杉山 隆二

東京農業專門學校教授 長戸 一雄

大阪高等學校教授 小島 信夫

資源科學研究所員 津山 尚

同 石橋 正夫

ニユーギニア民政府ニ於ケル事務囑託ヲ解キ海軍省南方政務部ニ於ケル事務ヲ囑託ス

梅垣 嘉治

三木 茂

坪井 國夫

太田 恭

阿部 辰三

米谷 信義

(各通)

石倉 寛治

長澤 徹

野田 光雄

兼松 四郎

山本 保男

ニユーギニア民政府ニ於ケル事務囑託ヲ解キ海軍省
南方政務部ニ於ケル事務ヲ囑託ス(待遇如故)

鈴木 玄

土浦海軍航空隊劍道教授囑託ヲ解キ松山海軍航空隊
劍道教授ヲ囑託ス(報酬 如故)

京都帝國大學教授 梶田 茂

ニユーギニア民政府ニ於ケル事務囑託ヲ解キ海軍省
南方政務部ニ於ケル事務ヲ囑託ス

(各通)

泉 靖一
淺野 清

ニユーギニア民政府ニ於ケル事務囑託ヲ解キ海軍省
南方政務部ニ於ケル事務ヲ囑託ス(待遇如故)

海軍省南方政務部事務囑託

兼テ海軍省經理局ニ於ケル事務ヲ囑託ス(待遇如故)

林 文三郎

木幡 行

支那方面艦隊ニ於ケル事務ヲ囑託シ部内限勅任官待
遇トス(以上十一月同)

「フライビン」國駐
在海軍主計中佐

青山 久二

艦隊經費分任出納官吏ヲ命ス(十一月支出官 海軍省經
理局長)

海軍主計中尉 中澤 康夫

第二四一設營隊ニ要スル給與及其ノ他ノ經費支拂ノ
爲艦隊經費分任出納官吏ヲ命ス(十一月同)

同 高島 慶之助

特務艦矢風ニ要スル給與及其ノ他ノ經費支拂ノ爲艦
隊經費臨時分任出納官吏ヲ命ス

同 高橋 良夫

右同分任出納官吏ヲ免ス(以上十一月同)

海軍主計兵曹長 今井 一男

第三十一驅潛隊ニ要スル給與及其ノ他ノ經費支拂ノ
爲艦隊經費臨時分任出納官吏ヲ命ス

同 小杉 虎吉

右同臨時分任出納官吏ヲ免ス(以上十一月同)

同 田島 勇次

第二十二根據地隊「ボンチアナク」派遣隊ニ要スル

給與及其ノ他ノ經費支拂ノ爲艦隊經費臨時分任出納
官吏ヲ命シ置キタル處之ヲ免ス(三十日同)

○ 雜 款

○ 旅費支給ニ關スル件
當隊ハ舊橫濱海軍航空隊ニシテ橫濱航空基地ニ常駐シ
アルモ往々ニシテ概算拂又ハ未給ノ儘赴任(轉勤)セ
シメラル向有之事務處理上支障不尠自今昭和十一年經
給第四三號ニ依リ湘南富岡迄前金拂相成度

(第八〇一海軍航空隊)

○ 轉勤者ニ關スル件

今期補充交代ニ依ル當司令部ヘノ轉入者ハ第八潛水艦
基地隊内第七潛水戰隊司令部ニ向ケ轉勤セシメラレ度
(第七潛水戰隊司令部)

○ 補給主任設置

當分ノ間第百一海軍軍需部ニ於テハ兵備品ノ補給主任
ハ本部ニノミ置クコトト致候條了知相成度

(第百一海軍軍需部)

○ 事務開始

「フィリッピン」國在勤帝國大使館附海軍武官事務所ハ
十月十四日「マニラ」市平和通六五〇ニ假設置シ事務

ヲ開始セリ

電話マニラ 五六八三一番

特設砲艦南海事務所ハ十月十六日セニ一セ二四第二分
工場内ニ設置シ事務ヲ開始セリ

「ダバオ」在勤海軍武官府ハ十月二十七日「ダバオ」市
「テオンコ」町ニ於テ事務ヲ開始セリ

「セブ」在勤海軍武官府ハ十月二十八日第三十一警備
隊「セブ」派遣隊内ニ於テ事務ヲ開始セリ

第二十六特別根據地隊事務所ハ十一月五日吳海兵團内
ニ於テ事務ヲ開始セリ

海軍公報 (部内限) 第四千五百三十七號

昭和十八年十一月十日

一二〇七

海軍公報

(部内限)第四千五百三十八號

海軍大臣官房

昭和十八年十一月十一日(木)

○令 達

官房機密第八二二號

昭和十六年官房機密第一二六五三號中左ノ通改正ス

昭和十八年十一月十日

海軍大臣

第四表備考第三號ヲ左ノ如ク改ム

三 糧食ノ支給ヲ受クル者ニ食料又ハ適宜ノ糧食ヲ支給スル要アルトキハ一食ニ付三十五錢以內ニ於テ之ヲ支給スルモノトス

(参照) 海軍機密會計法規類集一〇二頁

官房經第一二二二號

當分ノ間海軍内國旅費規則第十一條ノ規定ニ該當スル者ニシテ海軍病院入院中歸郷療養ヲ命ゼラレ歸郷地ニ滞在スルモノニハ該地到着ノ日ノ翌日ヨリ其ノ地發程ノ日ノ前日迄左ノ旅費ヲ支給スルコトヲ得

昭和十八年十一月十日

海軍大臣

士官、特務士官	日額 一圓二十錢
高等文官同待遇者	日額 一圓二十錢
部内限高等文官同待遇者	日額 一圓五錢
准士官、判任文官同待遇者	日額 一圓五錢
部内限判任文官同待遇者	日額 一圓五錢
下士官兵、雇員、傭人、工員	日額 九十錢

官房經第一二二二號

昭和十七年官房第六六四三號中左ノ通改正ス

昭和十八年十一月十日

海軍大臣

第一項中「昭和十七年閣令第二十五號」ヲ「昭和十八年閣令第二十四號」ニ改ム

(参照) 海軍會計法規類集二卷四八四ノ二頁

○通 牒

官房機密第四二四號

昭和十八年十一月一日

海軍公報(部内限)第四千五百三十八號

昭和十八年十一月十一日

一一〇九

海軍省副官

關係各廳長殿

海軍兵備品會計規程戰時特例ノ施行ニ伴
フ軍事教育圖書竝ニ祕密圖書經理規程ノ
施行方等ニ關スル件通牒

官房經第一〇三二號ニ依ル首題特令施行ニ伴フ軍事教
育圖書竝ニ祕密圖書ニ關スル經理規程ノ施行方其ノ他
ニ關シテハ左記ニ依リ處理相成度

記

- 一 軍事教育圖書經理規程第九條前段、第十條竝ニ祕
密圖書經理規程第八條及第十三條中兵備品取扱主任
ニ關スル規定ハ之ヲ兵備品補給主任ニ準用スルモノ
トス
- 二 兵備品會計官吏ハ供給簿ヲ備ヘ所管ノ艦船部隊等
ニ對スル圖書ノ供給狀況ヲ明ニスルト共ニ供給漏無
キ様機宜ノ處置ヲ講ズルモノトス
- 三 兵備品會計官吏他所管兵備品補給主任又ハ兵備品
取扱主任ニ圖書ヲ供給拂シ又ハ之ヨリ還納受シタル
トキハ所管海軍軍需部兵備品會計官吏ニ通報スルモ
ノトス（證憑（寫）送付）
- 四 兵備品補給主任相互間ニ於テ圖書ヲ供給拂シタル

- トキハ供給拂シタル兵備品補給主任ハ各兵備品補給
主任所管ノ海軍軍需部兵備品會計官吏ニ通報スルモ
ノトス（證憑（寫）送付）
- 兵備品取扱主任相互間ニ於テ圖書ヲ供給拂シタル場
合亦同ジ
- 五 兵備品補給主任兵備品取扱主任ニ圖書ヲ供給拂シ
又ハ之ヨリ還納受シタルトキハ所管海軍軍需部兵備
品會計官吏ニ通報ス（證憑（寫）送付）
- 兵備品補給主任ト兵備品取扱主任所管ヲ異ニスルト
キハ各其ノ所管海軍軍需部兵備品會計官吏ニ對シテ
ヲ通報スルモノトス（證憑（寫）送付）
- 六 兵備品補給主任及兵備品取扱主任其ノ保管圖書中
廢版ト爲リタルモノアリタルトキハ燒却處分ノ上燒
却通知票ニ表紙ヲ添附（祕以上ノミ）シ所管海軍軍
需部ノ兵備品會計官吏ニ送付スルモノトス
- 七 補給主任ハ毎月頭現有報告（圖書名、標記番號、
數量記載）ヲ海軍文庫及所管海軍軍需部兵備品會計
官吏ニ送付スルモノトス
- 八 艦船轉籍等ニ依リ其ノ所管海軍軍需部變更サレタ
ルトキハ舊所管海軍軍需部兵備品會計官吏ヨリ新所
管海軍軍需部兵備品會計官吏ニ供給圖書名、數量及

103

102

小番號ヲ通知スルモノトス

軍需機密需第七六六號

昭和十八年十一月九日

海軍省軍務局長
海軍省軍需局長

關係各廳長殿

陸上部隊進出時ノ供給材料ニ關スル件申進

特別陸戰隊、防空隊其ノ他新設陸上部隊進出時携行スル各種應急器材中各工廠、工作部(特設工作部ヲ含ム)又ハ施設部(特設施設部ヲ含ム)ニ於テ調達困難ナルモノニ對シ當該部隊ヨリ要求アリタル場合海軍軍需部(特設海軍軍需部ヲ含ム)ハ手持品アルトキハ適宜供給スルモノト了知相成度

追テ昭和十四年八月十七日軍務二機密第二三三二號申進中「作戰用設營材料ハ艦營需品トシ一般家屋、橋梁、道路、飛行場用材料等」ヲ「作戰用設營材料竝ニ一般家屋、橋梁、道路、飛行場用材料等」ニ改メラレ候

(艦營需品燃料取扱例規一七二頁參照)

經物第二二五號

昭和十八年十一月九日

海軍公報(部内限)第四千五百三十八號

昭和十八年十一月十一日

海軍省經理局長

關係各廳長殿

前金拂又ハ概算拂契約相手方ニ關スル件
通知

昭和十七年經物第一三五號第一第二項ニ依ル首題ノ件
左記ノ通承認致候
記

會社名

所在地

青木工業合名會社

京都市下京區唐橋羅城門一九

磯部鐵工所

新潟市元下島町四六五一

株式會社魚津製作所

富山縣新川郡魚津町大字上村木町七七七

大阪電氣鑄鋼株式會社

大阪府豐能郡庄内町大字島江三二

株式會社大泉工場

東京都品川區五反田一ノ二六三

株式會社國友鐵工所

川口市領家町五〇八〇

壽精工株式會社

東京都日本橋區吳服橋一ノ一六

小池須磨男
(東洋可鍛鑄工所)

大阪市西成區長橋通六ノ二

2055

株式會社阪口定吉商店	大阪府西區北境川町三ノ二〇
株式會社昭和冷機製作所	東京都蒲田區北糺谷町二一九
株式會社須河車體製作所	八 京都市下京區西九條森本町一
大日本金粉箔工業株式會社	三 大阪市西區新町南通四ノ一二
臺灣合同鳳梨株式會社	臺北市御成町四ノ一二
合名會社德間工業所	東京都葛飾區小谷野町九三
株式會社東華製作所	二 東京都葛飾區本田實木塚町三
東京航空螺子製造株式會社	東京都板橋區小豆澤一ノ八
株式會社中須製作所	東京都麴町區丸ノ内二ノ一〇
日滿電氣製鋼株式會社	大阪府南河內郡志紀村大字弓削七七〇
日本燃料機株式會社	東京都芝區田村町五ノ九
株式會社濱田精機鐵工所	東京都城東區龜戶町一ノ一三
合名會社宮下鑄造所	三 神戸市林田區御藏通四ノ四
株式會社名取機製作所	東京都麴町區丸ノ内三ノ一二
森電機株式會社	東京都大森區大森三ノ三四七

株式會社森幸電機製作所	東京府本所區菊川町一ノ三三
株式會社山形鐵工所	大阪府西區本田三番町六九

經物第二二六號
昭和十八年十一月九日
海軍省經理局長
關係各廳長殿
前金拂又ハ概算拂契約承認者名簿中一部改正ノ件通知
昭和十六年經物第一六三號別冊首題名簿中左記ノ通一部改正致候

一 削除者 記

會社名	所在地	事由
株式會社西海製作所	佐世保市白岳町八二六	軍管理工場
興亞重工業株式會社	東京都板橋區志村前野町八七六	購買名簿登錄者
三國商工株式會社	東京都神田區五軒町四	同
橋口己二	東京都日本橋區室町四ノ六	株式會社ニ組織變更セル者

二改 正

「橋本卯吉(橋本大量炊事器具工場)東京都本所區太平町一ノ一六」ヲ「株式會社橋本大量炊事器具工場東京都本所區太平町一ノ一六」ニ改ム

○ 辭 令

事務員 三村 正夫

同 福田 馨

同 清水 惣八

同 植木 仁

集配員 内藤 庄平

(各通)

第十海軍軍用郵便所員ヲ命ス

但シ身分ノ取扱ハ雇員トス

事務員 細川 興志一

第十一海軍軍用郵便所員ヲ命ス

但シ身分ノ取扱ハ雇員トス

通信書記 松岡 勘三郎

同 刀儀 年男

通信書記補 北井 敬治

同 城代 弘一

第二十一海軍軍用郵便所員ヲ命ス

(各通)

集配員 川本 稔

同 池田源五右衛門

同 大西 俊雄

第二十一海軍軍用郵便所員ヲ命ス

但シ身分ノ取扱ハ雇員トス

遞信局書記 野口 貞雄

第四十一海軍軍用郵便所員ヲ命ス(以上計明海軍省)

通信書記 岩下 古好

第三海軍軍用郵便所員ヲ命ス

(各通)

通信書記補 山口 茂

遞信局書記補 大庭 五郎

第四十三海軍軍用郵便所員ヲ命ス(以上計明同)

通信書記 高吉 等

同 稻垣 親

同 五島 正徳

同 原 正徳

同 田中 諱三

通信書記補 清水 秀夫

同 石原 純逸

同 有地 安男

同 青木 一男

海軍書記補 安藤 信雄
第二特別根據地隊附ヲ免シ東京海軍通信隊附ヲ命ス

通信書記 小 出 暉

(各通)

通信書記補 小 澤 泰英
同 吉 田 勝

東京海軍通信隊附ヲ免シ第四通信隊附ヲ命ス

(各通)

同 坂 倉 勝 彦
同 富 樫 文 也

第百一海軍燃料廠ニ配屬ス(以上同)

軍令部部員海軍少佐 藤 森 康 男

第一部第一課兼同第二課第十二課第二部第三課勤務ヲ命ス(十二海軍司令部)

海軍少佐 藤 森 康 男

兼參謀部第一部第二課第二部第三課勤務ヲ命ス(十二大本營海軍部)

海軍中佐 雀 部 利 三 郎

第一課兼第二課勤務ヲ命ス(十二海軍省軍務局)

○ 雜 款

○ 試驗問題發送

普通科 航空兵器術 整備術 特技章付與第二回銓衡試驗問題

(試驗施行期日 昭和十八年十二月十三日)

右十一月五日左記ノ通發送濟

記

一 聯合試驗參加不能ト認メラルル所轉ヘハ直送

二 聯合試驗用ノモノハ各海軍人事部長及各警備府副官宛送付

三 行動變更其ノ他ノ都合ニ依リ臨時必要ノ分トシテ

若干部數各海軍人事部長及各警備府副官宛送付シ置ケリ

末着若ハ臨時必要ヲ生ジタル向ハ最寄ノ右諸官ヨリ受領又ハ直接當司令部ニ請求相成度

(第十八聯合航空隊司令部)

○ 事務開始

呂號第四十七潜水艦裝員事務所ハ十一月四日三菱神戸造船所内ニ於テ事務ヲ開始セリ

○ 本日普通公報發行セズ

(限 内 部)

海軍公報

(部内限)第四千五百四十號

昭和十八年十一月十三日(土)

海軍大臣官房

令 達

官房設機密第一四八三號ノ三
昭和十八年官房設機密第一四八三號中左ノ通改正ス

昭和十八年十一月十三日

海軍大臣



第一人員

被補給部	隊、廳	内地補充擔任應	記 事
特設部	特設廳	一 期限附採用工員、海軍施設本部補給部 二 其ノ他ノ雇員備人及工員、横須賀海軍施設部	上記以外ノ特設海軍施設部及特設設營隊ニ對シテハ所管鎮守府所屬ノ施設部之ヲ行フ
海軍施設本部補給部ニテ編成シタル設營隊又ハ設營班	第四海軍施設部 第八海軍施設部		

第二資材

特設部	特設廳	内地補充擔任應	記 事
第八艦隊及第十一航空艦隊所屬特設設營隊	第八海軍施設部	海軍施設本部補給部	一 特設設營隊初度準備ハ所管鎮守府所屬ノ施設部

海軍公報(部内限)第四千五百四十號 昭和十八年十一月十三日

一五二七

2059

第四艦隊所屬特設營隊	第四海軍施設部	海軍施設本部補給部	之ヲ行フ 二 特設設營隊ニ對スル補給ハ上記當該欄ニ在ル特設施設部之ニ任ズルヲ例トシ必要ニ應ジテ當該内地補給擔任應ヨリ直接之ヲ行フ
第一南遣艦隊所屬特設營隊	第一百一海軍施設部	佐世保海軍施設部	
第二南遣艦隊所屬特設營隊及臨時海軍設營隊	第一百二海軍施設部	吳海軍施設部	
第三南遣艦隊所屬特設營隊	第一百三海軍施設部	佐世保海軍施設部	
海南海軍施設部 第一海軍施設部	佐世保海軍施設部		

第三 工事費整理

特設廳	内地擔任廳	記事
第四海軍施設部 第八海軍施設部	海軍施設本部補給部	

(参照) 官房設機密第一四八三ハ特設設營隊及特設施設部ニ要スル人員及資材並ニ特設施設部ノ工事費整理ニ關スル擔任區分ノ件ナリ(昭和十八年六月一日海軍公報(部内限)號外)

官房需第二〇九號ノ二
昭和十八年官房需第二〇九號中左ノ通改正ス
昭和十八年十一月十三日

海軍大臣
別表第一中主食品ノ項記事ノ欄ニ左ノ如ク加フ
(3) 新兵増加食、生徒増加食ノ米麥ヲパンニ換給スル場合ハ一食ニ付左ノ量額以内之ヲ給スルコトヲ得

海軍公報

(部内限) 第四千五百四十一號

海軍大臣官房

昭和十八年十一月十五日(月)

○令達

官房軍機密第一三五二號

昭和十六年官房機密第三六〇號中左ノ通改正ス

昭和十八年十一月十三日

海軍大臣

第五條第三號中「海軍部内」ノ下ニ「高等文官」ヲ加フ

(參照) 昭和十六年官房機密第三六〇號ハ日獨伊混合專門委員會ニ屬スル海軍職員ノ職務等ニ關スル件ナリ(一月十八日本欄)

○選牒

官房軍第一二八八號

昭和十八年十一月十三日

海軍省副官

各廳長殿

海軍文官同待遇者雇員傭入及海軍武官徴

海軍公報(部内限) 第四千五百四十一號

昭和十八年十一月十五日

一一二三

章附着ニ關スル件中改正ノ件通知

昭和十四年官房第六四〇三號申進首題ノ件中^オ備府管下勤務者ノ項ノ次ニ左ノ如ク加ヘラレ候
コ 海軍練習聯合航空總隊部下勤務者

(諸例則卷四ノ一三六ノ二頁參照)

經監經機密第十號

昭和十八年十一月十三日

海軍省經理局長
海軍省兵備局長

關係各廳長殿

徵用工員入廳時寢具携行ニ關スル件通牒

近時纖維製品ノ逼迫ニ伴ヒ徵用工員ニ對スル寢具ハ其ノ入手極メテ困難ヲ來シツアルニ付徵用詮衡ノ際極力寢具一組ハ携行スル様德慮シ之ニ對シ左記ニ依リ處理シ得ルコトト了知相成度

記

一 寢具ヲ携行セシ者ニ對シテハ官ニ於テ之ヲ買上ノ

- 一 上當該寢具ハ徵用期間中之ヲ本人ニ貸與スルコト
- 二 徵用解除ノ際ハ本人ニ之ヲ拂下グルモノトス
- 三 第一號ニ依ル買上價格ハ一組ニ付四十五圓トシ右代金ハ工員ヲシテ強制貯蓄ヲ行ハシムルモノトス
- 四 第二號ニ依ル拂下價格ハ買上價格ヨリ徵用期間一年ニ付十圓(一年未滿ハ一月ニ付九十錢)ヲ控除セ
- 五 寢具補修費ハ官費支辨トス

經監一機密第八號ノ二八

昭和十八年十一月十三日

海軍省經理局長

各海軍經理部長
各特設海軍經理部長
各出納官吏
殿

計算證明等ノ取扱ニ關スル件通牒

昭和十七年經監一機密第一一八號通牒(機密會計法規類集六四ノ四頁參照)首題ノ件中計算證明等取扱要領第一二號ノ次ニ左記ノ如ク追加致候

記

一三 工事、製造又ハ物件ノ買入其ノ他ノ請負契約ニ

付テハ會計規則等戰時特例第十三條ノ規定ニ依ルモ猶會計規則第九十二條又ハ第九十四條ニ規定スル調書ノ作成ヲ要スル場合ハ之ガ作成ヲ省略シ代金請求書(又ハ領收書)ノ餘白ニ所事項ヲ記載シ検査官ノ捺印ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得ルコト

一四 昭和十六年經監一第七一號別冊支出官計算證明證書調理様式凡例第十五ニ依ル第八號野紙ノ提出ハ之ヲ省略シ代金請求書(又ハ領收書)ノ餘白ニ所事項ヲ記載シ之ニ代フルコトヲ得ルコト

軍需衣第一六四號

昭和十八年十一月十三日

海軍省軍需局長
海軍省經理局長

關係各廳長殿

被服物品ノ繰替供給ヲ爲シタル場合ノ取扱ニ關スル件申進

首題ニ關シテハ昭和十八年官房需第一三六號(六月十八日海軍公報(部内限)第二號ニ依リ昭和六年官房需第一三五六號ノ規定ヲ準用ノコトニ定メラレ居候處昭和十八年官房需第一一七五號(十月二十九日海軍公報(部内限)ノ發令ニ伴ヒ大東亞戰爭中ハ自然同號ヲ準

用スル義ト承知相成度

艦本機密兵電第一三〇二號

昭和十八年十一月六日

海軍艦政本部長

横須賀、吳、
佐世保、舞鶴、
大湊、鎮海、高雄

探照燈用（信號探照燈ヲ含ム）補用炭棒
保持器供給竝ニ還納ニ關スル件通牒（砲
術長主管）（航海長主管）

首題兵器ハ自今供給セザルコトトシ現供用中ノモノハ
左記ニ依リ還納受スベシ

追テ在庫探照燈ニ對シテハ分離組替ノ上別籍整理ノ
コト

記

- 一 現供用中ノ左記兵器ヲ速ニ最寄ノ海軍軍需部ニ還納スルモノトス（但シ戰地進出中ノ陸上部隊ヲ除ク）
補用炭棒保持器格納筐共（九六式探照燈用 各種）
（九二式同 同）
（須式同 同）
- 二 但シ長月日作戦上内地ニ離ルルノ場合左ノ標準ニ依リ臨時供給ス

海軍公報（部内限）第四千五百四十一號

昭和十八年十一月十五日

一二二五

探照燈裝備基數

臨時供給數

同一探照燈四基以上裝備艦船

四基毎ニ一個

同一探照燈一基以上裝備艦船

隊ヲ編成スル場合各隊毎ニ一個

同

其他ハ供給セザルヲ立前トス

但シ右ノ外必要ト認ムル場合ハ臨時供給スルコトヲ得

三 各軍需部ハ還納受後速ニ還納先竝ニ品名數量報告ノコト

○ 辭 令

日 比 新

囑託（軍屬船員）ヲ命シ部内限委任官待遇トス（八月）
海軍省

（各通）

村上 勝市
坂田 周造
安西 重太郎
新村 喜之助
藤井 謹之助
囑託（軍屬船員）ヲ命シ部内限委任官待遇トス（八月）

(同)

下青木 佐一

山口 卓視

中野 弘

宮本 政之助

小寺 清郷

伊地知 一男

伊藤 不可止

藤井 直文

岩田 勝五郎

武田 敬三

神谷 豊文

金尾 静衛

山田 進

小室 富雄

囑託(軍屬船員)ヲ命シ部内限奏任官待遇トス(三十九日)

(同)

木野下 武

囑託(軍屬船員)ヲ命シ部内限奏任官待遇トス(三十四日)

(同)

瀬戸口 泰吉

第十一特別工作部ニ於ケル業務ヲ囑託ス

但シ報酬年額貳千百六拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス(二十六日同)

渡辺 精一

第十一特別工作部ニ於ケル業務ヲ囑託ス

但シ報酬年額貳千四百貳拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス(七日同)

待遇トス(七日同)

真弓 彌三郎

第十一特別工作部ニ於ケル業務ヲ囑託ス

但シ報酬年額貳千七百七拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス(二十日同)

待遇トス(二十日同)

南洋廳航空官 龜山 忠直

横須賀鎮守府ニ於ケル業務囑託ヲ解ク(三十一日同)

三重海軍航空隊教授囑託

有澤 丈夫

自今報酬年額千四百七拾圓ヲ給ス(三十一日同)

安藤 利男

軍令部ニ於ケル事務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス

城 義雄

第百二海軍病院ジャカルタ分院ニ於ケル醫療業務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス

工藤 敏郎

軍令部ニ於ケル調査事務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス

109

達第二百七十六號

海上護衛總司令部處務規程左ノ通定ム

昭和十八年十一月十五日

海軍大臣 嶋田繁太郎

海上護衛總司令部處務規程

鎮守府處務規程第二條乃至第四條、第六條、第十二條、第十四條及第十六條乃至第十九條ノ規定ハ
海上護衛總司令部ニ之ヲ準用ス

(諸例則卷一、一五五頁參照)

達第二百七十七號

昭和十七年達第五十一號ハ之ヲ廢止ス

昭和十八年十一月十五日

海軍大臣 嶋田繁太郎

參照 昭和十七年達第五十一號ハ關東州ニ於ケル土木、建築工事ノ實施並ニ國有財産ノ整理及取扱ハ佐世保海軍施設部ノ所掌ト
ナスノ件ナリ

達

六六三

2065

海軍艦政本部部報 (部内限)

第一〇五號

昭和十八年十一月十八日(木)

海軍艦政本部

○ 通 牒

艦本機密第八號ノ一五三二二

昭和十八年十一月六日

海軍艦政本部長

關係各海軍工廠長
同各海軍工作部長
同各民間製造所社長

占領地、支那沿岸及南洋群島所在民間委託造船所並ニ南方所在民間委託經營木造船所用材料準備手續ニ關スル件照會
首題ノ件別紙ノ通制定候條可然取計相成度

(別紙)

海軍艦政本部

(一八、九、六)

占領地、支那沿岸及南洋群島所在民間委託造船所並ニ南方所在民間委託經營木造船所用材料準備手續

第一條 本手續ハ占領地、支那沿岸及南洋群島所在民間委託造船所(以下單ニ造船所ト稱ス)並ニ南方所在民間委託經營木造船所(以下單ニ木造船所ト稱ス)ニ要スル材料物品ノ準備ニ關スルコトヲ規定ス

第二條 造船所ニ於テ工事ノ爲要スル材料ハ極力現地ニ於テ調達スルモノトス

第三條 造船所工事ノ爲要スル材料ニシテ現地調達困難ノモノアルトキハ別表所定ノ海軍工作部(以下單ニ工作部ト稱ス)ニ要求スルト共ニ之ガ寫ヲ内地造船所本社ニ送付スルモノトス

第四條 工作部前條ノ規定ニ依リ材料ノ要求ヲ受ケタルトキハ昭和十八年艦本機密第八號ノ七六〇七ニ依リ之ガ供給ヲ爲スモノトス

前項ノ場合ニ於テ材料準備ヲ擔當工廠ニ要求スルトキハ材料準備請求書用途欄ニ供給先造船所名ヲ明記スルモノトス

第五條 内地造船所本社ハ第三條ニ依リ材料要求書ノ寫ノ送付ヲ受ケタルトキハ別表區分ニ依ル擔當ノ海

艦政本部部報 (部内限) 第一〇五號

昭和十八年十一月十八日

三八五

軍工廠ニ速ニ連絡ノ上之ガ準備ニ協力スルモノトス
前項ノ場合内地造船所本社ハ極力自社保有品ヲ供給
スルモノトス

第六條 工作部本手續ニ依リテ造船所ニ供給セル材料
中賣拂整理ヲ要スルモノニ付テハ毎月左ノ區分ニ依
リ之ヲ取纏メ品名、數量、單價、代價及ビ賣拂先ヲ
擔當工廠ヲ經由艦政本部會計部長ニ通報スルト共ニ
擔當工廠ニ保管轉換ノ手續ヲ爲スモノトス但シ海軍
工事ノ爲要スル材料ニ付テハ極力材料官給ニ依リ處
理スルモノトス

戰利船	拿捕船	陸海軍徵備船	一般船舶	船舶種	物動上ノ造修 材料負但區分	記事
同	同	同	海軍移管船舶 造修物資			長サ五〇米以上ノ 鋼船ノ場合ノミ但 シ戰傷修理ノ場合 ハ長サ三〇米未滿 ノ船舶ヲ含ム
右	右	右				總テノ船舶ヲ含ム 但シ陸海軍ニ於テ 正規ノ手續ニ依ラ ズシテ所有セルモ ノハ夫々ノ軍ニ於

敵性沈船	同	右	テ負但スルモノト ス
海軍艦艇	海軍省物資	總テノ艦船艇ヲ含 ム	
陸軍舟艇	陸軍省物資		
其ノ他ノ船舶	商工省物資 (海務院但當)	長サ三〇米未滿ノ 民有鋼船及木造船 トス	
備考	一般船舶中ニハ敵性ヲ有セザル 各國船舶ヲ含ム		

第七條 擔當工廠前條ニ依リ材料ノ保管轉換ヲ受ケタ
ルトキハ海軍工廠資金ニ組入ノ上内地造船所本社ニ
賣拂ノ手續ヲ爲スモノトス

第八條 艦政本部會計部長ハ第六條ノ通報ニ依リ物動
上ノ整理ヲ行フモノトス

第九條 第二條乃至第八條ノ規定ハ木造船所ニ要スル
材料ニ之ヲ準用ス但シ木造船用材料ハ物動上ノ取扱
ハ海軍軍需トシ極力官給ニ依リ處理スルモノトス

附則

昭和十七年十二月二十九日艦本機密商第一五號ノ一三
七(船舶修理用資材ニ關スル件照會)及昭和十八年二
月二十六日艦本機密商第一〇號ノ一四九(占領地ニ於

海軍公報

(部内限) 第四千五百四十六號

昭和十八年十一月二十日(土)

海軍大臣官房

2068

○軍令

朕防備戰隊令中ヲ改定シ之ガ施行ヲ命ズ

御名 御璽

昭和十八年十一月十九日

海軍大臣 嶋田繁太郎

軍令海第十七號

防備戰隊令中左ノ通改正ス

第一條第一項中「竝ニ」ノ下ニ「航空隊、」ヲ加フ

第四條中「及防備隊」ヲ「防備隊、航空隊等」ニ改

第五條第一項中「防備隊」ノ下ニ「若ハ航空隊」ヲ加

〔參照〕

昭和九年十二月十日 軍令海第六號防備戰隊令抄錄
五日公布

第一條第一項

防備戰隊ハ鎮守府又ハ警備府所屬ノ在役艦船及豫

備艦船竝ニ驅逐隊、潛水隊、海防隊、水雷隊、掃
海隊又ハ驅潛隊中特ニ定ムルモノヲ以テ之ヲ編成
ス

第四條 司令官ハ艦船及防備隊ヲ以テスル海面防禦
及防禦海面ノ警備ニ關スルコトヲ統轄シ又必要ニ
應ジ鎮守府司令長官又ハ警備府司令長官ノ定ムル
所ニ依リ鎮守府又ハ警備府ノ所管警備區ノ警備ニ
關スルコトヲ分掌ス

第五條第一項

司令官ハ鎮守府司令長官又ハ警備府司令長官ノ承
認ヲ經テ自己ノ旗艦ヲ定メ又ハ部下ノ防備隊ニ防
備戰隊司令部ヲ置ク

○令 達

官房艦第五三八號

昭和十七年官房第五八一三號中左ノ通改正ス

昭和十八年十一月十八日

海軍公報(部内限) 第四千五百四十六號 昭和十八年十一月二十日

一二五二

海軍大臣

本文中「特設海軍航空廠」ヲ削ル

第二號(ロ)中「海軍航空廠又ハ海軍航空技術廠」及「又ハ海軍航空本部長、」同號(ニ)中「又ハ海軍航空本部長」ヲ削ル

第二號ノホヲ左ノ如ク改ム

(ホ) 特設應ニ於テ使用スル工事用材料ノ保管出納ハ海軍通常物品會計規程第一號甲書式ノ出納原簿ヲ設ケ整理スルモノトス

第三號(イ)第一項中「又ハ海軍航空本部長」及同號第二項ヲ削ル

第三號(ハ)ノ(一)中(D)ヲ削リ(E)ヲ(D)、(F)ヲ(E)トス

第三號(ハ)ノ(二)ノ(A)ノ(3)及(4)ヲ左ノ如ク改ム

(3) 造船造兵修理工事以外ノ部内各廳ヨリノ受託工事費ハ造船造兵及修理費豫算支辨トシ部外ヨリノ受託工事費ハ受託造修費豫算支辨トス受託造修費豫算支辨ノモノニ在リテハ適宜ノ方法ニ依リ其ノ總工事費(特設應直接支出額以外ノ經費ヲ含ムモノトス)ヲ計算シ工事完了後別紙(書式第一)ノ受託工事調書ヲ調製シ海軍艦政本部長ニ送付スルモノトス

(4) 海軍艦政本部ハ前號ノ受託工事調書ニ依リ戰時海軍工作廳工事費規則ニ基キ歳入ニ關スル手續ヲ爲スモノトス但シ特設應ニ於テ直接歳入ニ關スル手續ヲ爲スヲ便宜トスルモノニ在リテハ特設應ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ受託工事調書ニ其ノ旨附記スルモノトス

第三號(ハ)ノ(二)ノ(B)ヲ左ノ如ク改ム

(B) 特設應施行工事ニ要シタル總工事費ノ整理

(1) 特設應支拂ノ工事費及工作廳等支拂ノ工事費(工作廳ニ於ケル特設應工作工事ニシテ)工事費ヲ要セザル材料物品受入額及其ノ他特設應直接支出額以外ノ經費ヲ含ムモノトス)ノ總額ニ付第三號ノ(ハ)ノ(二)ノ(A)ノ(2)ニ依ル工事費整理トハ別個ニ施行工事ノ實際ニ應ジ砲、煩、水雷、電氣、無線、航海、光學、音響、機雷、船體、機關及其ノ他ニ分チ適宜ノ方法ニ依リ工數、工費、材料費等ヲ算出整理スルモノトス

(2) 戰時海軍工作廳工事費規則第九號及第十號書式ニ準ジ年報ヲ翌年度六月末日迄ニ、第八號書式ニ準ジ豫算現況調書ヲ九月、十二月及三月作製シ翌月二十日迄ニ海軍艦政本部長ニ送付スル

モノトス

第三號(ハ)(三)(B)ヲ左ノ如ク改ム

(B) 引揚艦船ハ艦船別ニ、處理物件ハ處理工事別ニ其ノ總工事費(特設廳直接支出額以外ノ經費ヲ含ムモノトス)ヲ整理スルモノトス

第三號(ハ)(三)(D)ヲ「D」左ニ屬スルモノニ對スル工事完了調書ニハ作業船名、同就業日數、作業員延日數及標準引揚費ヲ計上スルモノトス」ニ改メ同(3)ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

(4) 救難作業ニシテ目的達成ノ前各號該當船舶

第三號(ハ)(三)(B)中「海軍工作廳工事費整理規則」ヲ「戰時海軍工作廳工事費規則」ニ改ム

第三號(ハ)(三)(F)ヲ左ノ如ク改ム

(F) 戰時海軍工作廳工事費規則第九號書式ニ準ジ年報ヲ翌年度六月末日迄ニ、第八號書式ニ準ジ豫算、現況調書ヲ九月、十二月及三月作製シ翌月二十日迄ニ海軍艦政本部長ニ送付スルモノトス
書式第一中「支拂外費」ヲ「外費」ニ、備考ヲ左ノ如ク改ム

1 工作廳ニ於ケル支拂額ト特設廳支拂額トヲ各別ニ計上スルモノトス

2 委託者ハ陸軍○○、○○會社等ト記載スルモノトス

3 外費ハ運賃、人夫賃、工員旅費其ノ他工費及材料費ニ屬セザル諸費ヲ計上スルモノトス

4 船渠、機械使用料及評價格ハ戰時海軍工作廳工費規則第四十八條乃至第五十條ノ規定ニ準ジ計上スルモノトス

5 納入告知書送付先ハ當該費用ノ納入者ニ直接納入告知書ヲ送付シ得ル如ク其ノ住所氏名(職名)ヲ詳細記載スルモノトス

6 番號ハ年度毎ニ一貫番號トシ當該年度最終番號ニハ「何年度終」ヲ記載スルモノトス

書式第二中「從業員延日數」ヲ「作業員延日數」ニ、備考第四號ヲ「經費徵收ヲ要セザルモノニ對シテハ作業船名、同就業日數、作業員延日數及標準引揚費ハ省略スルコトヲ得」ニ、同第五號中「海軍工作廳工事費整理規則第四十七條」ヲ「戰時海軍工作廳工事費規則第五十條」ニ、同第七號中「工事費整理規則」ヲ「戰時海軍工作廳工事費規則」ニ改メ「第六號」ヲ「第七號」トシ以下順次繰下グ第五號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ
6 經費徵收ヲ要スルモノト然ラザルモノトハ區分

シ調製スルモノトス

(参照) 官房第五八一三號ハ工作艦(特設工作艦ヲ含ム)、特設海軍工作部、特設海軍航空廠、特設特別工作部、警備府附屬ノ修理工場、艦船又ハ兵器ノ修理ヲ爲ス特設部隊等ニ於テ工事ニ要スル契約、通常物品及工事費ノ整理ニ關スル件ナリ (昭和十七年九月三十日海軍公報(部内限) 第四二〇七號)

通牒

官房備機密第一四五號ノ二二

昭和十八年十一月二十日

海軍省副官

各廳長殿

郵便物ニ關スル件通牒

官房備機密第一四五號通牒首題ノ件別冊郵便物ニ關スル例規中左記ノ通改メラレ候

記

附錄部隊區別符表(其ノ一)中「航空隊 ヲ四六」ヲ「父島航空隊 ヲ四六」ニ改メ「高砂義勇隊第二義勇中隊 ヲ參〇九」「第七潜水隊司令部 ヲ參壹〇」「第三〇一航空隊 ヲ參壹壹」「第九艦隊司令部 ヲ參壹貳」ヲ加フ

同(其ノ三)中ニ「第五十八防空隊 イ九八」ヲ加フ
同(其ノ四)中ニ「第二十六特別根據地隊 セ壹〇壹」ヲ加フ

辭令

海軍主計中佐 德永 春雄
海軍經理部「ペナン」支部ニ要スル給與及其ノ他ノ經費支拂ノ爲艦隊經費分任出納官吏ヲ命ス

海軍主計大尉 松元 鋼太郎
第一百一海軍經理部ニ要スル給與及其ノ他ノ經費支拂ノ爲艦隊經費分任出納官吏ヲ命ス

海軍主計中佐 德永 春雄
右同分任出納官吏ヲ免ス

各 驅逐艦若葉 海軍主計少尉 石川 昌
(通) 同 初霜 海軍主計兵曹長 中山 喜善
各頭書ニ要スル給與及其ノ他ノ經費支拂ノ爲艦隊經費臨時分任出納官吏ヲ命ス(註)支出官 海軍省經理局長)

雜款

同 一月以上ノ者 同 十五日分以内

二 増加賞與

(一) 勤続一月以上ノ者ニシテ扶養家族ヲ有スル工員ニ對シ増給

イ) 扶養家族三人以内ノ者 給料 四日分以内
ロ) 同 四人以上ノ者 同 八日分以内

(二) 徵用工員ニ對シ増給 同 十二日分以内
但シ徵用期間一月ニ付二日分トス

三 海軍工作廳長ハ海軍省經理局長ノ定ムル所ニ依リ

一般賞與總金額ノ範圍内ニテ各人ニ對シ増減支給
ヲモトス

官房空第三八九號

當分ノ間特設海軍航空廠ニ於テ工事ニ要スル通常物品
及工事費ノ整理ニ關シテハ左ノ各號ニ依ルベシ

昭和十八年十一月二十二日

海 軍 大 臣

一 通常物品整理

イ) 特設海軍航空廠ニ要スル通常物品ハ海軍航空本
部長ノ定ムル供給擔當廳ノ通常物品會計官吏(以
下擔任會計官吏ト稱ス)之ヲ供給ス

ロ) 擔任會計官吏ハ特設海軍航空廠勤務ノ主計科士
官(主計科士官ヲ置カザルトキハ判任官)ヲ取扱

主任トシ機械ニ在リテハ供用トシ其ノ他ノ材料物
品ニ在リテハ消耗拂トシテ之ヲ供給スルモノトス

ハ) 特設海軍航空廠ニ於テ物品ヲ購買シタルトキハ
取扱主任ハ毎月取纏メ別紙書式第一ニ依リ購買物
品調書二通(一通ハ納票ニ一通ハ領收票ニ代用ス)
ヲ調製シ之ヲ擔任會計官吏ニ送付シ受入ノ手續ヲ
爲スモノトス

ニ) 取扱主任其ノ取扱ニ係ル物品ニシテ不用ニ屬ス
ルモノアルトキハ擔任會計官吏ニ還納スルモノト
ス但シ材料物品ニ在リテハ最寄ノ會計官吏ニ之ヲ
還納スルコトヲ得

ホ) 取扱主任ハ適宜ノ帳簿ヲ備ヘ物品受拂ヲ登記ス
ルモノトス

二 工事費整理

イ) 特設海軍航空廠ニ於テ工事費ノ整理ヲ爲スヲ要
スト認ムルモノニ付テハ戰時海軍工作廳工事費規
則ヲ準用ス

ロ) 造船造兵修理工事以外ノ部内各廳ヨリノ受託工
事費ハ造船造兵及修理費豫算支辨トシ部外ヨリノ

受託工事費ハ受託造修費豫算支辨トス受託造修費豫算支辨ノモノハ適宜ノ方法ニ依リ其ノ總工事費(特設海軍航空廠直接支出額以外ノ經費ヲ含ムモノトシ見積金額ニ依ルコトヲ得)ヲ計算シ工事完了後別紙書式第二ニ依ル受託工事調書ヲ調製シ之ヲ海軍航空本部長ニ送付スルモノトス

(ハ) 海軍航空本部ハ前號ノ受託工事調書ニ依リ戰時海軍工作廳工事費規則ニ基キ歳入ニ關スル手續ヲ爲スモノトス但シ特設海軍航空廠ニ於テ直接歳入ニ關スル手續ヲ爲スヲ便宜トスルモノニ在リテハ特設海軍航空廠ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ受託工事調書ニ其ノ旨附記スルモノトス
(別紙二葉添)

○ 通 牒

官房人第二二五六號ノ二

昭和十八年十一月二十二日

海 軍 次 官

各所屬長官殿

文官、同待遇者ニシテ陸海軍ノ現役ニ服スルモノノ取扱ニ關スル件中改正ノ件申進

官房人第二二五六號申進首題ノ件中陸軍特別操縦見習士官ノ取扱ニ付テハ同號但書ノ陸海軍學生生徒中除外セラルベキ幹部候補生、操縦候補生及陸軍補充令第八十三條第一項ノ下士官候補者竝ニ海軍豫備學生ニ準ズルモノト了知相成度

(九月十四日海軍公報(部内限)本欄参照)

軍務三機密第一四七號

昭和十八年十一月二十二日

海軍省軍務局長

關係各廳長殿

機關故障欠損報告ニ關スル件申進

首題ノ件左ノ通定メラレ候

一 大正五年官房第一一四〇號中首題ニ關シテハ從來ノ如ク艦船ニ於テ機關日誌機關月報機關月報摘要ニ記載シタルト同一事項ハ之ヲ故障欠損報告トシテ艦隊、鎮守府、警備府又ハ戰隊ノ機關長ヨリ軍務局長ニ通報スルヲ要セズ但シ同一故障頻發シタル場合又ハ重要ナル故障欠損ニシテ艦隊、鎮守府、警備府又ハ戰隊ノ機關長ニ於テ將來機關ノ計畫、工作又ハ取扱上特ニ參考ト爲ルベキ事項ト認メタル場合ニ於テ

海軍公報(部内限)第四千五百四十八號

昭和十八年十一月二十四日

一二六九

ハ此等ヲ一括シ大正十三年官房第二九四四號所定様式ニ拘ラズ適宜ノ様式(故障欠損ノ程度、處置、原因竝ニ所見等)ニテ軍務局長ニ通報ノコト

二 昭和十八年十二月一日以降機關科ヨリ他科ニ移管サルル機關(電力裝置、水壓裝置、空氣壓縮裝置ヲ含ム)ニ於テ其ノ効力ニ影響ヲ及ボスベキ故障欠損ヲ生ジタル場合ハ艦長(司令)ハ大正十三年官房第二九四四號所定様式ニ準ジ機關故障欠損報告ニ通テ調製シ一通ヲ軍務局長ニ通報シ一通ヲ海軍工機學校宛送付ノコト

(諸例則卷三、三八四頁参照)

經給機密第二一七號

昭和十八年十一月二十日

海軍省經理局長

關係各廳長殿

工員賞與増減支給ニ關スル件通牒

本年官房經機密第八五七號ニ依ル首題ノ件ハ本年經給機密第一一六號ニ依リ實施ノコトニ取計相成度

(参照) 昭和十八年五月三十一日海軍公報(部内限)

經決機密第一一號

昭和十八年十一月二十二日

海軍省經理局長

歳入徵收官
支出官 殿

歳入歳出現況調ノ件照會

昭和六年二月二十日經決第一一四號ニ依ル首題ノ件ハ本年度以降當分ノ間提出ヲ要セザル義ト了知相成度

(参照) 昭和六年二月二十日經決第一一四號
會計法規一卷一五〇頁

○感狀

感狀

「ルンガ」泊地攻撃潜水部隊

昭和十七年十一月七日以降同年十二月十四日ニ至ル間「ソロモン」諸島「ルンガ」泊地所在ノ敵艦船攻撃ニ參加シ多大ノ戦果ヲ擧ゲ帝國海軍軍人ノ忠烈ヲ克ク中外ニ宣揚シ全軍ノ士氣ヲ振作シタルハ其ノ武勳顯著ナリト認ム
仍テ茲ニ感狀ヲ授與ス

昭和十八年九月十五日

ケル一般船舶修理用鋼材準備ニ關スル件通知)ハ之ヲ
廢止ス

本手續ハ昭和十八年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

(別表添)

(參考一)

艦本機密商第一五號ノ一三七

昭和十七年十二月二十九日

海軍艦政本部商船部長

- 第一、第二、第一〇一
- 第一〇二、第一〇三
- 海軍工作部長

- 第一〇一海軍工作部蘭貢出張所長
- 第一〇二海軍工作部ハタビヤ出張所長

船舶修理用資材ニ關スル件照會

陸海軍徴用船舶及一般船舶修理用資材ハ海軍艦政本部
ニテ擔當(移管船舶造修)ノコトト相成居候ニ付テハ
貴部ニ於テ使用スル之等資材ハ委託經營造船所ノ内地
本社ヲシテ當部ニ連絡ノ上内地ニテ取得セシメラレ度
右修理用資材ハ現地陸軍側ノ要望アル場合ニハ其ノ一
部ヲ工作部在ラザル主要地碇泊場司令部(但シ成ルベ
ク分散ヲ避クル爲差當リ西貢バンレンバント豫定ス)ニ
分送スルコトヲ得ルモノトス、分送分ニ對スル讓渡契
約ハ委託經營造船所ト陸軍トノ間ニ締結スルモノトス

知相成度

(陸軍現地機關ト海軍中央主務者打合濟)

寫送付先

- 三菱重工業株式會社社長
- 川崎重工業株式會社社長
- 函館船渠株式會社社長
- 株式會社福大公司社長
- 三井造船株式會社社長
- 播磨造船株式會社社長
- 栃木商事株式會社社長

(參考二)

艦本機密商第一〇號ノ一四九

昭和十八年二月二十六日

海軍艦政本部總務部長

- 横須賀海軍工廠總務部長
- 第一、第二、第四、第百一、第百二、第百三
- 三井、三菱長崎、三菱
- 神戶、播磨川崎、若松
- 各造船所長

占領地ニ於ケル一般船舶修理用鋼材準備
ニ關スル件通知

昭和十七年十二月二十九日艦本機密商第一五號ノ一三

艦政本部報(部内限)第一〇五號

昭和十八年十一月十八日

三八七

七(船舶修理用資材ニ關スル件照會)ニ基ク普通鋼鋼材
昭和十八年度割當ヲ別表ノ通豫定セラレ候條夫々別表
擔當造船所ヲシテ内地並ノ取得法ニ依リ調達セシメラ
レ度

(別表二葉添)

艦本機密第五號ノ一五四四〇

昭和十八年十一月九日

記

海軍艦政本部總務部長
海軍艦政本部商船部長
横須賀、吳、佐世
保、廣、舞鶴、光
海軍工廠總務部長
各海軍監工部
各海軍監督長、首席監督官
艦船及甲造船一般船舶機關水中軸受材料
適用標準ノ件通知
首題ノ件當分ノ間左記ニ依ルコトニ定メラレ候

前項以外ノ艦艇	戰艦、巡洋艦、 航空母艦、驅逐 艦、潜水艦及之 等ニ準ズルモノ	船 種 所		使 用 材		料
		張 出 部	受 嵌 部	軸 管 部	嵌 輪 部	
含蠟軸受木材第 一種又ハ第二種 ノ各二級品	含蠟軸受木材第 一種一級品	上半部	下半部	上半部	下半部	送水ポンプ、冷 却水(海水)ポ ンプ
含蠟軸受木材第 一種又ハ第二種 ノ各一級品	リグナムバイタ	上半部	下半部	上半部	下半部	リグナムバイタ
含蠟軸受木材第 一種又ハ第二種 ノ各三級品	含蠟軸受木材第 一種二級品	上半部	下半部	上半部	下半部	リグナムバイタ
含蠟軸受木材第 一種又ハ第二種 ノ各二級品	含蠟軸受木材第 一種一級品	上半部	下半部	上半部	下半部	リグナムバイタ

2077

(別紙)

書式第二

(昭和十八年十一月二十四日海軍公報(部内限))

受託工事調書

(昭和 年度第 號)

施行廳名

委託者名	工事名	工事費				機械 使用料	評價格	納入告知 書送付先	記事
		工費	材料費	外費	計				

備考

1. 工作廳ニ於ケル支拂額ト特設廳支拂額トヲ各別ニ計上スルモノトス
2. 委託者名ハ陸軍〇〇、〇〇會社等ト記載スルモノトス
3. 外費ハ運賃、人夫賃、工員旅費其ノ他工費及材料費ニ屬セザル諸費ヲ計上スルモノトス
4. 機械使用料及評價格ハ戰時海軍工作廳工事費規則第四十八條乃至第五十條ノ規定ニ準ジ計上スルモノトス
5. 納入告知書送付先ハ當該費用ハ納入者ニ直接納入告知書ヲ送付シ得ル如ク其ノ住所氏名(職名)ヲ詳細記載スルモノトス
6. 番號ハ年度毎ニ一貫番號トシ當該年度最終番號ニハ「何年度終」ヲ記載スルモノトス

2078

達第二百八十一號

兵器經理規程中左ノ通改正ス

昭和十八年十一月十六日

海軍大臣 嶋田繁太郎

第四條 兵器ハ之ヲ備品及消耗品ニ區分シ内務長、航海長、砲術長、水雷長、機雷長、通信長及機

關長ノ各主管ニ分チ之ヲ海軍艦政本部關係兵器ト稱ス

海軍艦政本部關係兵器各主管別ノ兵器品目ハ別表第一號ノ一(備品)及同第一號ノ二(消耗品)

ニ依ル

前項ノ兵器中別表第一號ノ三(其ノ一、其ノ二)ノ品目ヲ軍需部整理兵器ト稱ス

別表第一號ノ一乃至第五號ヲ夫々別表第二號ノ一乃至第五號ノ如ク改ム

附則

本令ハ昭和十八年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

(別表七葉添)

(會計法規類集 四卷一六三頁參照)

達

六八五

2079

兵器(備品) 主管表

主管別	品目 (例示)
内務長	防毒兵器 發電機械、空氣壓縮ポンプ(發電機械用)、氣蓄器(發電機械用)、電動發電機、電動昇壓機、電動機、電動送風機、管制盤、配電盤、蓄電池、電熱器、電燈、電路(以上内務科用) 高聲令達機、高聲通話機、電話器(一般交換)、變壓器、呼鐘裝置、防禦指揮信裝置 内務科諸要具 右附屬器具及試験器具
航海長	航海關係兵器、氣象兵器、見張關係兵器、信號兵器(航空機用ヲ除ク)、探信機(航海用)、電動機及同關聯裝置(舵取裝置用) 火工兵器(航海用) 航海科通信裝置、航海科諸要具 右附屬器具及試験器具
砲術長	砲、砲塔、砲架、水壓機(砲塔用)、水力發動機及整動機(砲煩關係)、水壓「ポンプ」電動機(砲煩關係及探照燈用)、電動發電機及同關聯裝置(砲及探照燈用)銃、照準演習機、空中聽音機、空中聽測裝置 彈丸、火藥及火工兵器(砲煩用) 光學兵器(砲術科用)、陸戰兵器、化學兵器(防毒關係ヲ除ク)、照射關係兵器、射擊指揮兵器及同裝置、彈藥庫器具、砲戰指揮通信裝置、砲術科諸要具 右附屬器具及試験器具
水雷長	發射機、魚雷、空氣壓縮「ポンプ」及同關聯裝置(潜水艦用及發電機械用ヲ除ク)、特用空氣壓縮「ポンプ」、氣蓄器(發電機械用ヲ除ク) 火藥及火工兵器(水雷用) 光學兵器(水雷科用)、水雷戰指揮通信裝置、水雷科諸要具 右附屬器具及試験器具
機雷長	機雷敷設裝置、機雷、掃海具、電動機及同關聯裝置(敷設關係)、投射機、爆雷、防潜網、探信儀、水中聽音機、舷外電路裝置 火藥及火工兵器(機雷用) 光學兵器(機雷科用)、機雷戰指揮通信裝置、機雷科諸要具 右附屬器具及試験器具
通信長	送信機、受信機、無線電信機、無線電話機、方位測定機、電波鑑査機、測波器、空中線裝置、電波探信儀、電波探知機 水中信號機、印字機、電信機 發電機及電動發電機(無線關係)、蓄電池(通信用) 通信管制裝置、通信科指揮通信裝置、通信科諸要具 右附屬器具及試験器具
機關長	空氣壓縮「ポンプ」(潜水艦用)、發電機械、電動發電機、電動機、電動送風機、管制盤、配電盤、蓄電池、電熱器、電燈、電路(以上機關科用)、高聲電話器 機關科指揮通信裝置、機關科諸要具 右附屬器具及試験器具
備考	一、本表ニ掲グル兵器中別表第一號ノ二(消耗品)ニ屬スルモノハ之ヲ除ク 二、各主管ニ屬スル兵器ノ細別ハ兵器簿ニ依ル

兵器(消耗品)主管表

主管別	品目 (例示)
内務長	滴瓶、硝子管、試験管類、蓄電池基板隔離用木製品類、乾電池、電球、覆硝子(「クローブ」類、刷子、糸(板)「ヒューズ」、「ヒューズ」筒及外筒(一型及二型)、「ヒューズ」栓、間座及衛帶類、帆布製覆材料品 其ノ他修理保存用消耗兵器
航海長	演習用、訓練用及試験用ノ火工兵器 轉輪羅針儀用ノ油示硝子、窓硝子、緒線片及水銀、測深儀用着色管、測風氣球探照燈用炭棒(信號用)、乾電池、電球、覆硝子類、刷子、「ヒューズ」筒、「ヒューズ」間座及衛帶類、螺釘類、帆布製覆材料品 其ノ他修理保存用消耗兵器
砲術長	演習用、訓練用及試験用ノ彈丸、火藥、火工兵器及化學兵器、空包瓦斯止銅發火裝置隔離環、探照燈用炭棒、乾電池、電球、間座及衛帶類、寫真用消耗品 帆布製覆材料品 其ノ他修理保存用消耗兵器
水雷長	演習用、訓練用及試験用ノ火工兵器、魚雷用補用品 復水管、乾電池、電球、覆硝子類、間座及衛帶類、螺釘類、帆布製覆材料品 其ノ他修理保存用消耗兵器
機雷長	演習用、訓練用及試験用ノ火工兵器、機雷用、爆雷用及掃海具用補用品、機雷用及防潜網用溶解片、水銀 乾電池、電球、覆硝子類、白金線、間座及衛帶類、帆布製覆材料品 其ノ他修理保存用消耗兵器
通信長	電球類、真空切斷器、硝子管、覆硝子類、「エボナイト」管、護謨管、乾電池、刷子、「ヒューズ」筒、各種「ヒューズ」、蓄電池基板隔離用木製品類、間座及衛帶類、帆布製覆材料品 其ノ他修理保存用消耗兵器
機關長	蓄電池用隔離板(多孔隔離板ヲ除ク)類、電球類、覆硝子(「グローブ」類、刷子、糸(板)「ヒューズ」、「ヒューズ」筒(一型及二型)、「ヒューズ」栓、間座及衛帶類、帆布製覆材料品 其ノ他修理保存用消耗兵器
備考	各主管ニ屬スル兵器ノ細別ハ兵器簿ニ依ル

別表第一號ノ三(其ノ一)

(昭和十八年達第二百八十一號)

軍需部整理兵器(備品)

主管別		取分	品目
内務長	航海長		
甲	甲	甲	電路補修要具筐收納品。(自在同螺器小、側斷鉗仔(小及鐵線切)、線切、洋刀)、電路補修要具靴收納品。(丸「ペンチ」、「ナイフ」、線切、自在「スバナ」試験燈)、「カドミウム」試験器、「ヒューズ」筒及「ヒューズ」外筒(一型、二ヲ除ク)、受金、寒暖計用保護筒(發電機械用)
乙	乙	乙	蓄電池檢電器筐收納品。「スポイト」、比重計、寒暖計)、比重計、寒暖計(電池用)、注射液、寒暖計(發電機械用)
乙	乙	乙	陽極板(電氣淨水器用)、素燒槽(電氣淨水器用)、陰極隔膜(電氣淨水器用)
甲	甲	甲	兩脚器、最高最低寒暖計、最高寒暖計、最低寒暖計、海中最高最低寒暖計、乾寒暖計、海水寒暖計、海底寒暖計、通常寒暖計、秤水器、視圖鏡、集光硝子、在同螺器(不感磁氣)、双眼鏡革袋類、帆布製覆
乙	乙	乙	測距儀用ノ目當護謨及接眼護謨、望遠鏡及双眼鏡類ノ目當護謨、測距儀歷
乙	乙	乙	大形三角定規、小形三角定規、擴大鏡
乙	乙	乙	肩當式投射銃用筒桿、同帽筒、同導索
甲	甲	甲	砲用油入、小銃銃口蓋、同背負革、同劍鞘、同劍差、同小木槌、同彈蓋盒及同帶革、同打殼囊、同藥室手入具、拳銃肩革、同帶革及紐、双眼鏡革袋類、帆布製覆
甲	甲	甲	測距儀用ノ目當護謨及接眼護謨、望遠鏡及双眼鏡類ノ目當護謨、砲用革製層成衛帶、砲歷、機銃歷、抑氣具經歷簿、測距儀歷
乙	乙	乙	各種要具筐錠前、鉛錠、鐵條網、鐵兜覆
乙	乙	乙	携帶燈
甲	甲	甲	寒暖計、比重計、双眼鏡革袋類、帆布製覆
甲	甲	甲	尾索、架臺(特種木製)、測距儀用望遠鏡類用ノ目當護謨及接眼護謨、發熱體、魚雷採收要具、魚雷採收索
甲	甲	甲	双眼鏡革袋類、帆布製覆
甲	甲	甲	測距儀用望遠鏡類用ノ目當護謨及接眼護謨、機雷引揚用間索
乙	乙	乙	電池覆、側斷鉗仔、五號同螺器
乙	乙	乙	潮流計
甲	甲	甲	電路補修要具筐收納品(自在同螺器小、側斷鉗仔(小及鐵線切)、線切、洋小刀)、電路補修要具靴收納品(丸「ペンチ」、「ナイフ」、線切、自在「スバナ」、試験燈)、「ヒューズ」筒及「ヒューズ」外筒(一型及二型ヲ除ク)、受金
乙	乙	乙	蓄電池檢電器筐收納品(「スポイト」、比重計、寒暖計)、比重計、寒暖計(電池用)

分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	<table border="1" data-bbox="746 555 1225 779"><tr><td data-bbox="746 555 986 779">2</td><td data-bbox="986 555 1225 779">1</td></tr></table>	2	1
2	1		
分割撮影 した理由	A3版以上のため		
文書等名	昭和18年達第281号 別表第1号の 3(其の2) 軍需部整理兵器(消耗 品)		
上記のとおり分割撮影したことを証明する。			

機 關 長	通 信 長	機 雷 長	水 雷 長	砲 術 長	航 海 長	内 務 長		主管別
						取 分	品 目	
甲	乙	○甲 ○乙	○甲 ○乙	○甲 ○乙	○甲 ○乙	○甲 ○乙	甲	「ヒューズ」筒及「ヒューズ」外筒(一型、二型)、各種糸(板)「ヒューズ」筒、電球(小型携帯燈用)、覆硝子(乙29、乙30、戊27、戊33)、業燈用、衛帶及間座類
甲	乙	○甲 ○乙	○甲 ○乙	○甲 ○乙	○甲 ○乙	○甲 ○乙	甲	檢知管、酸素防毒面用發生罐
甲	乙	○甲 ○乙	○甲 ○乙	○甲 ○乙	○甲 ○乙	○甲 ○乙	甲	發火栓
甲	乙	○甲 ○乙	○甲 ○乙	○甲 ○乙	○甲 ○乙	○甲 ○乙	甲	蓄電池檢電器筐收納品(護謨管、「エポナイト」管、硝子管)、「ニッパ」硝酸、硝酸銀溶液、黃色結晶鹽溶液、滴瓶、試驗管類、蒸溜水瓶(硝子(乙29、乙30、戊27、戊33ヲ除ク)、「グローブ」(電燈用笠)、乾電池類
甲	乙	○甲 ○乙	○甲 ○乙	○甲 ○乙	○甲 ○乙	○甲 ○乙	甲	緒線片、「ヒューズ」筒、糸(板)「ヒューズ」類、各種電球(電氣海軍電球制式ノモノ)
甲	乙	○甲 ○乙	○甲 ○乙	○甲 ○乙	○甲 ○乙	○甲 ○乙	甲	觸着片
甲	乙	○甲 ○乙	○甲 ○乙	○甲 ○乙	○甲 ○乙	○甲 ○乙	甲	發條類
甲	乙	○甲 ○乙	○甲 ○乙	○甲 ○乙	○甲 ○乙	○甲 ○乙	甲	寫真用消耗品、水銀、「グリセリン」、「サルチルサン」、「アセチレン」モニヤガス、「アセトン」、「蒸溜水、喇叭總、喪章、發光體、刷子類
甲	乙	○甲 ○乙	○甲 ○乙	○甲 ○乙	○甲 ○乙	○甲 ○乙	甲	螺釘類、間座類、衛帶類、帆布、帆縫糸、索、鳩目環、覆硝子(電色硝子ヲ除ク)
甲	乙	○甲 ○乙	○甲 ○乙	○甲 ○乙	○甲 ○乙	○甲 ○乙	甲	測風氣球、測風電燈
甲	乙	○甲 ○乙	○甲 ○乙	○甲 ○乙	○甲 ○乙	○甲 ○乙	甲	乾電池類、覆硝子(電氣信號燈用着色硝子)
甲	乙	○甲 ○乙	○甲 ○乙	○甲 ○乙	○甲 ○乙	○甲 ○乙	甲	整動機用衛帶及環座類(金屬製ヲ除ク)、各種電球(電氣兵器用ヲ除制式ノモノ)、發煙器用衛帶及環座類、瓦斯止銅環
甲	乙	○甲 ○乙	○甲 ○乙	○甲 ○乙	○甲 ○乙	○甲 ○乙	甲	空砲用紙塞、毛塞、藥莢蓋、「ユリカ」線
甲	乙	○甲 ○乙	○甲 ○乙	○甲 ○乙	○甲 ○乙	○甲 ○乙	甲	衛帶及間座類(金屬製ヲ除ク)、火焰發射器用「ガス」
甲	乙	○甲 ○乙	○甲 ○乙	○甲 ○乙	○甲 ○乙	○甲 ○乙	甲	射擊用及空放用藥囊類
甲	乙	○甲 ○乙	○甲 ○乙	○甲 ○乙	○甲 ○乙	○甲 ○乙	甲	各種砲尾栓潤滑油、一號膠劑
甲	乙	○甲 ○乙	○甲 ○乙	○甲 ○乙	○甲 ○乙	○甲 ○乙	甲	砲用革製衛帶及間座類(重要ナル部分ニ使用ノモノ)
甲	乙	○甲 ○乙	○甲 ○乙	○甲 ○乙	○甲 ○乙	○甲 ○乙	甲	寫真用消耗品
甲	乙	○甲 ○乙	○甲 ○乙	○甲 ○乙	○甲 ○乙	○甲 ○乙	甲	覆硝子、土囊、帆布、帆縫糸、索、鳩目環
甲	乙	○甲 ○乙	○甲 ○乙	○甲 ○乙	○甲 ○乙	○甲 ○乙	甲	陸戰兵器附着ノ消耗品類
甲	乙	○甲 ○乙	○甲 ○乙	○甲 ○乙	○甲 ○乙	○甲 ○乙	甲	乾電池類
甲	乙	○甲 ○乙	○甲 ○乙	○甲 ○乙	○甲 ○乙	○甲 ○乙	甲	螺蓋、澆網筐、澆網、調和器澆網骨子、裝氣口、唧子環、止軸螺、小尖螺、塞氣弁軸、護謨塞栓、鎖定栓、魚雷用補用品母螺、螺軸、螺錐、傾斜栓、螺子類、由式空氣壓縮「ポンプ」用補用品、間座類、「ヒューズ」筒、糸(板)「ヒューズ」類、絕緣物、燃料罐口金、電球(驅水頭部二型用)、各種電球(電氣兵器用ヲ除キ海軍電球制式ノモノ)
甲	乙	○甲 ○乙	○甲 ○乙	○甲 ○乙	○甲 ○乙	○甲 ○乙	甲	弁
甲	乙	○甲 ○乙	○甲 ○乙	○甲 ○乙	○甲 ○乙	○甲 ○乙	甲	銅管、螺釘類、螺栓類、發條類、衛帶類
甲	乙	○甲 ○乙	○甲 ○乙	○甲 ○乙	○甲 ○乙	○甲 ○乙	甲	特用苛性「ソーダ」、「トリクレン」、割栓類、硝子、硝子管、覆硝子、帆布、帆縫糸、索、鳩目環、鹽(驅水頭部用)、鹽化「カルシウム」(魚雷用)
甲	乙	○甲 ○乙	○甲 ○乙	○甲 ○乙	○甲 ○乙	○甲 ○乙	甲	乾電池類
甲	乙	○甲 ○乙	○甲 ○乙	○甲 ○乙	○甲 ○乙	○甲 ○乙	甲	機雷用爆雷用掃海具用防潜網用補用品、分離板、座金、押桿、銅板、錫板、母螺、螺軸、螺錐、傾斜栓、螺子類、安全針類、止栓類、眼錐、擔球、間座類、機雷用水防護環、「ヒューズ」筒、糸(板)「ヒューズ」類
甲	乙	○甲 ○乙	○甲 ○乙	○甲 ○乙	○甲 ○乙	○甲 ○乙	甲	導線類、電球(掃海標燈用)、各種電球(電氣兵器用ヲ除キ海軍電球制式ノモノ)
甲	乙	○甲 ○乙	○甲 ○乙	○甲 ○乙	○甲 ○乙	○甲 ○乙	甲	弁、制止針、溶解片
甲	乙	○甲 ○乙	○甲 ○乙	○甲 ○乙	○甲 ○乙	○甲 ○乙	甲	擊針、止軸座、制止錐、分離器、銅管、螺釘類、螺栓類、發條類、衛帶類、炸藥室螺螺子、鴨足形齒車、絡車、觸着片
甲	乙	○甲 ○乙	○甲 ○乙	○甲 ○乙	○甲 ○乙	○甲 ○乙	甲	砂糖斷縁保持片
甲	乙	○甲 ○乙	○甲 ○乙	○甲 ○乙	○甲 ○乙	○甲 ○乙	甲	網糸、火口、擬炸藥、「フィルム」、輾輪鈎、水銀
甲	乙	○甲 ○乙	○甲 ○乙	○甲 ○乙	○甲 ○乙	○甲 ○乙	甲	護謨蓋、護謨囊、引出鈎、發條筐、填物、石綿紐、墨鉛、割栓類、硝子、硝子管、覆硝子、帆布、帆縫糸、索、鳩目環
甲	乙	○甲 ○乙	○甲 ○乙	○甲 ○乙	○甲 ○乙	○甲 ○乙	甲	乾電池類
甲	乙	○甲 ○乙	○甲 ○乙	○甲 ○乙	○甲 ○乙	○甲 ○乙	甲	問座類、衛帶類
甲	乙	○甲 ○乙	○甲 ○乙	○甲 ○乙	○甲 ○乙	○甲 ○乙	甲	發火栓
甲	乙	○甲 ○乙	○甲 ○乙	○甲 ○乙	○甲 ○乙	○甲 ○乙	甲	亞鉛銅基板、亞鉛基板、銅基板、覆硝子
甲	乙	○甲 ○乙	○甲 ○乙	○甲 ○乙	○甲 ○乙	○甲 ○乙	甲	乾電池類、蓄電池液、空中線碍子(引入用及裝備用ノモノヲ除ク)
甲	乙	○甲 ○乙	○甲 ○乙	○甲 ○乙	○甲 ○乙	○甲 ○乙	甲	「ヒューズ」筒及「ヒューズ」外筒(一型、二型)、各種糸(板)「ヒューズ」、覆硝子(乙29、乙30、戊27、戊33)、衛帶及間座類

主管別	品目
内務長	發電機械、空氣壓縮「ポンプ」(發電機械用)、氣蓄器(發電機械用)、電動發電機、電動昇壓機、電動機、變壓器、蓄電池(陸上用並ニ三號一型及三號二型)、管配電盤、防禦指揮通信器、高聲令達機、高聲通話機、高聲電話器、防毒面(以後ノモノ)、防毒衣
航海長	轉輪羅針儀、磁氣羅針儀、艦底測程儀、音響測深儀、電動測深儀、探信儀、器、航跡儀 經線儀、六分儀、金庫 風信儀、經緯儀、高層氣象觀測機、二式測風儀、瓦斯發生機 潛望鏡、測距儀、双眼望遠鏡、見張通信器、哨信儀、寫真機、乾燥器 信號噴煙筒、信號用探照燈、炭棒保持器、反射鏡、前面硝子、探照燈型電氣燈、二「キロ」信號燈、山川燈、信號諸燈(極秘ノモノ) 火工兵器 其ノ他電氣通信器
砲術長	砲身、砲架、砲床、砲塔、水力發動機、整動機、電動機、電動發電機 機銃、小銃、拳銃 彈丸、火藥、火工兵器、化學兵器 方位盤射擊裝置、射擊盤、高射裝置、距離苗頭盤、測的盤、距離時計(一一式以後ノモノ)及變距率盤、彈着時計、信管秒時測定器、其ノ他新式射擊指揮要具 照準器、測距儀、觀測鏡、双眼望遠鏡、望遠鏡、側方彈着寫真機、乾燥器 空中聽音機、空中聽測裝置、探照燈及同管制器、炭棒保持器、反射鏡、前面硝子 陸戰車輛類 砲戰指揮通信器
水雷長	發射機、魚雷、魚雷頭部、空氣壓縮「ポンプ」(發電機械用ヲ除ク)、特用空氣壓縮「ポンプ」、氣蓄器(發電機械用ヲ除ク) 火藥、火工兵器 方位盤、發射指揮盤、射法盤、測的盤、其ノ他新式發射指揮要具、測距儀、双眼望遠鏡 水雷戰指揮通信器
機雷長	機雷敷設裝置、機雷、掃海具、磁氣探知器、爆破鉤、防雷具、水底電線切斷具、水中聽音機、舷外電路裝置、投射機、爆雷、防潛網、探信儀、送波器、測距儀、双眼望遠鏡 火藥、火工兵器 機雷戰指揮通信裝置
通信長	送信機、受信機、無線電信機、無線電話機、方位測定機、電波探信儀、電波探知機、電波鑑査機、測波器、無線電信柱(鐵製) 水中信號機、印字機、發電機、電動發電機、電氣通信器
機關長	發電機械、電動發電機、電動機、蓄電池(潛水艦用)並ニ外器、外器蓋及基板、管制盤、配電盤、高聲電話器、電壓式速度計 機關指揮通信器

別表第四號

海軍軍需部ノ隸スル所屬長官ノ貸與シ得ル兵器

(昭和十八年達第二百八十一號)

主管別	品目
内務長	外國製防毒面、教練用防毒面 石油發動機用ノ燒玉、口金及霧吹口金、小型携帶燈、潜水燈、「カドミウム」試験器、比重計、寒暖計、蒸溜水瓶(護膜製)、注射液、電氣鑷付鋸、受金
航海長	三杆分度儀、定規、兩脚器、視圖鏡、各種寒暖計(電氣乾濕寒暖計ヲ除ク)、秤水器 投射銃用ノ筒杆、導索及帽筒
砲術長	彈環套、火藥罐、藥囊盒、彈藥庫器具、携帶燈 側方彈着觀測器、鐵條網 砲術科諸要具(稜鏡双眼鏡及別表第三號ニ掲グル兵器ヲ除ク)
水雷長	尾索、架臺(特種木製)、發熱体 魚雷採收要具、魚雷採收索
機雷長	機雷引揚用間索、潮流計、電池覆、側斷鉗仔、五號回螺器
通信長	受聽器、移動送話口、手動電鍵
機關長	「カドミウム」試験器、比重計、寒暖計、電氣鑷付鋸、受金
(備考) 貸與期間ハ一年以内トス	

兵備品會計官吏ニテ廢品ト決定シ得ル兵器

(昭和十八年第十達二百八十一號)

主管別	品目
内務長	電鐘用釦、注射液瓶、「スポイト」、寒暖計、比重計、應急電線、電球受金、木製筐類、「エポナイト」製品 軍需部整理兵器
航海長	測深儀用鋼線、測深儀用索線、喇叭、電球受金 木製筐類、硝子製品、「エポナイト」製品、護謨製品 軍需部整理兵器
砲術長	洗帚杖、藥室洗帚杖、洗帚頭、裝填杖、拔彈杖、接柄、砲口栓、牽索、測壓器同螺器、苗頭加減器格納盒 小銃附屬品(革製ノモノ)、銃口蓋、小木槌、小銃打殼囊、拳銃紐、劍鞘直彈藥引揚囊、彈藥庫器具(檢濕器及自記寒暖計ヲ除ク)、縮射彈藥包附屬品 前面硝子、檢光用硝子、檢光用眼鏡、電纜及電線、電球受金 木製筐類、電纜格納筐、「エポナイト」製品、護謨製品、帆布製覆、電池覆 軍需部整理兵器
水雷長	電球受金 木製筐類、「エポナイト」製品、護謨製品 軍需部整理兵器
機雷長	電球受金 木製筐類、「エポナイト」製品、護謨製品 軍需部整理兵器
通信長	空中線、空中線用杵、空中線引揚索、引入口隔縁物、碍子防雷器 電球受金、電池用漏斗 木製筐類、「エポナイト」製品、護謨製品、帆布製覆 軍需部整理兵器
機關長	「スポイト」、寒暖計、比重計、電球受金 木製筐類、「エポナイト」製品、護謨製品 軍需部整理兵器

海軍航空本部部報 (部内限) 第二百七十九號

昭和十八年十一月二十二日 木曜日
海軍航空本部

○ 通 牒

航本機密第一六三七一號

昭和十八年十一月二十二日

海軍航空本部總務部長

關係各廳長殿

航空機加工ノ殘材及削粉呼稱ニ關スル件

照會

首題ノ件金屬類ニアリテハ從來一般ニ金屬屑ト呼稱シ居候處屑ナル名ハ不知不識ノ間ニ之レガ取扱ニ妙カラズ遺憾ノ點ヲ生ジアルトコロ如上物件ハ現下航空機緊急増産上何物ニモ代ヘ難キ貴重ナル活用資材ナルヲ以テ之レガ取扱ニ關シテハ最モ慎重ヲ要スベキモノニ付爾今其ノ價值ニ基キ「活材」ト呼稱スルコトニ定メラレ候條右呼稱法ヲ徹底セシムルト共ニ其ノ重要性ヲモ併セ示達相成度

航本機密第一六三七三號

昭和十八年十一月二十二日

航空本部部報 (部内限) 第二百七十九號

昭和十八年十一月二十二日

四三七

關係各廳長殿

海軍航空本部總務部長

社内検査内規承認ノ件通知

首題ノ件ニ關シ株式会社秋田工場ヨリ出願有之十一月二十二日航本機密第一六三七二號ヲ以テ承認セラレ候追テ社内検査ニ對スル刻印左記ノ通

記

試験検査ノ種類	刻		備考
	檢印	會社印	
材料試験及検査	✿	秋	寸法 三一〇%
寸法検査	○		
部分検査			
部品完成検査	✿		

空保第八六三號

昭和十八年十一月二十二日

運輸通信省航空局長

海軍航空本部長殿

那覇飛行場一部使用禁止ニ關スル件

首題飛行場工事施行ノ爲左記ニ依リ場内ノ一部使用禁止致候ニ付同場使用ニ當リ注意方配意相成度

記

- 一、使用禁止區域 別紙圖面斜線區域
- 二、使用禁止期間 昭和十八年十一月五日ヨリ當分ノ間
- 三、境界標示 境界ニハ赤布板及赤旗ヲ以テ標示ス

本件通知先

別圖添

陸軍航空本部長、大日本航空株式會社總裁兒玉常雄、朝日新聞社々長、毎日新聞社々長、讀賣新聞社々長、同盟通信社々長、中華航空株式會社々長、航空局東京支局長、同名古屋出張所長、同大阪支局長

海軍公報

(部内限) 第四千五百五十六號

海軍大臣官房

昭和十八年十二月三日(金)

○令 達

官房人第二七〇八號

本年十二月一日現在隼人海軍病院ノ職員タル者ハ特ニ發令セラルルモノノ外別ニ辭令ヲ用ヒズシテ霧島海軍病院ノ各相當職員ニ補命セラレタル義ト心得ベシ

昭和十八年十二月一日

海軍大臣

官房需機密第五〇號

昭和十八年十二月一日

海軍大臣

各鎮守府司令長官
各警備府司令長官 殿

海軍配當船ニ海軍軍人、軍屬便乗スル場
合艦營需品供給ニ關スル件訓令

大東亞戰爭中海軍配當船タル油槽船ニ便乗スル海軍軍人、軍屬用トシテ艦營需品ノ供給ヲ要スルトキハ備品ハ貸與、一般用消耗品ハ消耗拂トシテ當該船舶ノ長ニ

海軍公報(部内限) 第四千五百五十六號

昭和十八年十二月三日

一三一五



之ヲ供給セシムベシ
之ガ詳細ニ關シテハ海軍省軍需局長ヲシテ通牒セシム

官房需第二四四號

當分ノ間豫備學生ニハ學校、航空隊、海兵團等ニ於テ基礎教育期間中ニ限り新兵増加食ヲ給スルコトヲ得

昭和十八年十二月二日

海軍大臣

○通 牒

軍需機密需第八〇四號

昭和十八年十二月一日

海軍省軍需局長

各海軍軍需部長
各特設海軍軍需部長 殿

海軍配當船タル油槽船ニ海軍軍人、軍屬便
乗スル場合艦營需品供給ニ關スル件通牒

官房需機密第五〇號訓令ニ依ル首題ノ件ニ關シテハ

左記ニ依リ處理相成度

記

一 供給ノ範圍

備品ハ主トシテ食事器具類竝ニ代用壘トス
一般用消耗品ハ兵備品諸用紙竝ニ直接食事ニ必要ナル物品ニ限ル

二 處理要領

(イ) 備品ヲ貸與スル場合

(一) 軍人、軍屬便乘期間中ニ限リ船長ノ請求領收票ニ依リ之ヲ貸與スルモノトス

(二) 貸與シタル物品中亡失シタルモノアリタル場合ハ船長ノ證明ニ依リ海軍兵備品會計規程第二十条ニ依リ處理スルモノトス

(ロ) 一般用消耗品ヲ供給スル場合

軍人、軍屬便乘期間中ニ限リ船長ノ請求領收票ニ依リ消耗拂トシテ之ヲ供給スルモノトス

○ 辭令

高千穂丸三等運轉士 木村 壽

囑託(軍屬船員)ヲ命シ部内限判任官ヲ以テ待遇セ

ラル(三十九日)海軍省兵備局

(各通)

春日丸無線通信士 岩元 正則
同 三等運轉士 工藤 榮一
囑託(軍屬船員)ヲ命シ部内限判任官ヲ以テ待遇セラル(四十四日同)

海軍主計少佐 折田 三郎
第百二海軍經理部アンボン支部ニ要スル給與及其ノ他ノ經費支拂ノ爲艦隊經費分任出納官吏ヲ命ス(三十一日)支出官 海軍省經理局長)

○ 雜款

○練習生採用試験問題ノ件照會
本艦任務行動上聯合試験參加不能ニ付自今各種練習生採用試験問題一部宛直送相成度
(海防艦對島)

○事務開始

第二〇三設營隊事務所ハ十一月七日横須賀市横須賀海軍施設部内ニ於テ事務ヲ開始セリ

大阪海軍運輸部下津出張所ハ十一月二十四日和歌山縣海草郡大崎村字六五六八ニ於テ事務ヲ開始セリ
(丸善石油株式會社下津出張所事務一部)

電話下津 一一八番

○事務所撤去
海防艦滿珠艤裝員事務所ハ十一月三十日之ヲ撤去セリ

○訂正
十一月十五日附公報(部内限) 辭令欄一二三二頁上段
十二行目「難波 治」ノ發令月日「十一月十五日」ハ
「十一月一日」ニ訂正

○取消
十一月一日附公報(部内限) 辭令欄一一七五頁下段十
三行目「青柳晴一」ノ辭令ハ取消

○正誤
十月十五日附公報(部内限) 辭令欄一一〇七頁下段二
行目「海南海軍特務部」ハ「海南警備府」ノ誤

海軍公報(部内限) 第四千五百五十六號

昭和十八年十二月三日

一三二七

2094

117

海軍公報

第四千八百八十號

昭和十八年十二月四日(土)

海軍大臣官房

○令達

官房經第一二九五號
 高等商船學校、水産講習所及函館高等水産學校ニ配屬
 ノ首席海軍武官ハ海軍官印規程第三條ノ規定ニ拘ラズ
 職印ヲ備フルコトヲ得
 前項ノ職印ハ當該海軍武官所屬ノ鎮守府ニ屬スル海軍
 經理部ニ於テ交付スルモノトス
 昭和十八年十二月三日
 海軍大臣

○通牒

海人第二一號ノ四四四
 昭和十八年十二月三日
 海軍省人事局長
 關係所轄長殿
 軍屬身分調書送付ノ件照會

戰地ニ在ル海軍艦船部隊其ノ他各部ハ軍屬現在員ニ對
 スル身分調書(本年達第二百八十四號大東亞戰爭中戰
 歿者等身上取扱規則第二十一條所定)ヲ調製シ海軍省
 人事局長及所管鎮守府海軍人事部長ニ各一通送付相成
 度

○辭令

昭和十八年十一月十七日

鈴木善吉

任海軍技手

給三級俸

○昭和十八年十二月二日

臺中州郡技手 富岡時成

任海軍技手

給六級俸

井上計夫

高雄州郡技手

新竹州技手

前野實

坂口國夫

(各通)

海軍公報 第四千八百八十號 昭和十八年十二月四日

六四三

灘波 清

任海軍技手

給月俸七拾圓

海軍技手 鈴木 善吉

横須賀海軍工廠勤務ヲ命ス(廿七期海軍省)

293
291

達第二百九十三號

海軍徵備船舶船員訓練規則左ノ通定ム

昭和十八年十一月二十九日

海軍大臣 嶋田繁太郎

海軍徵備船舶船員訓練規則

第一條 本訓練ノ目的ハ徵備船舶ノ船員ニ對シ主トシテ海上交通保護上必要ナル事項ヲ教示シ且ツ演練セシムルト共ニ船舶各部ノ整備ヲ期シ以テ其ノ使途ニ應ジ任務ヲ完遂セシムルニ在リ

第二條 船員ノ訓練ハ左ノ各號ノ事項ニ付毎年一回以上徵備船舶ニ於テ之ヲ行フモノトス但シ狀況ニ依リ訓練ノ一部ハ適宜ノ場所ニ船員ヲ參集セシメテ之ヲ行フコトヲ得

一 講 義

二 演 練

三 査 閲

第三條 各種訓練ノ實施標準等ハ別表ニ依ルモノトシ船舶ノ現状又ハ船員ノ階級ニ應ジ適宜區分シ之ヲ實施スルモノトス

達

七二五

2097

第四條 所屬長官（海軍省配屬船ニ付テハ海軍運輸本部長以下同ジ）又ハ所轄長（所屬長官ヨリ指定セラレタル者以下同ジ）ハ部下ノ士官ヲ徵傭船舶訓練指導官ニ指定シ船員ノ訓練ニ任ゼシムルモノトス

第五條 所屬長官又ハ所轄長ハ徵傭船ノ現状又ハ行動ニ基キ適宜徵傭船舶船員ノ訓練實施要領ヲ定メ之ヲ實施スルモノトス

第六條 所屬長官又ハ所轄長本訓練ヲ實施シタルトキハ實施ノ概要及成績ニ所見ヲ附シ其ノ都度海軍大臣ニ報告（別紙様式）ズベシ

（別表一、様式一葉添）

達第二百九十四號

海軍兵備品會計規程中左ノ通改正ス

昭和十八年十一月二十九日

海軍大臣 嶋田繁太郎

第十八條第二項ヲ左ノ如ク改ム

兵備品出納命令官前項ノ場合ニ於テ備品又ハ貸與品ヲ元受セシメタルトキハ之ヲ海軍大臣ニ報告

スヘシ

第三十三條ノ二中第二項ヲ削ル

別表兵器ノ項中、^{海軍}防艦艦ノ兵備品取扱主任中「航海長、」ノ上ニ「内務長、」ヲ加ヘ「運用

一等驅逐艦
一等潛水艦

長、」及「整備長、」ヲ削ル

同表兵器ノ項中航空隊ノ兵備品取扱主任中「整備長」ヲ「内務長」ニ改ム

同表兵器ノ項及艦營需品ノ項中海兵團、警備隊及防備隊ノ各兵備品取扱主任中「機關長」ヲ「内務長」ニ改ム

同表艦營需品ノ項中^{海軍}防艦艦ノ兵備品取扱主任中「航海長、」ノ上ニ「内務長、」ヲ加ヘ「運

一等驅逐艦
一等潛水艦

用長、」及「整備長、」及「工作長」ヲ削ル

同表艦營需品ノ項中航空隊ノ兵備品取扱主任中「通信長、」ノ上ニ「内務長、」ヲ加ヘ「整備長、」ヲ削ル

達

七二七

2099

同表燃料ノ項中 海軍 特務艦ノ兵備品取扱主任「機關長」ノ上ニ「飛行長、」ヲ加フ
一等驅逐艦
一等潛水艦

同表燃料ノ項中 海兵團 警備隊 防備隊ノ兵備品取扱主任「機關長」ヲ「内務長」ニ改ム

同表燃料ノ項中航空隊ノ兵備品取扱主任「整備長」ヲ「飛行長」ニ改ム

同表港用品ノ項中航空隊ノ兵備品取扱主任「整備長」ヲ「内務長」ニ改ム

同表備考第三號中「運用長」及「機關長」ヲ「内務長」ニ改メ、「整備長」ヲ削ル

同表備考第九號ヲ削リ第三號ノ二ヲ第四號トシ第八號迄以下順次繰下グ

同表備考第十二號ヲ左ノ如ク改ム

横須賀軍需部四日市支部及吳軍需部徳山支部ニ在リテハ主計科士官タル兼務ノ軍需部部員、横須賀軍需部霞ヶ浦支部、同館山支庫及同女川支庫ニ在リテハ兵科士官タル兼務ノ軍需部部員、吳軍需部佐伯支部ニ在リテハ被服及糧食ニ付テハ主計科士官、特務士官タル兼務ノ軍需部部員又ハ附、其ノ他ノ兵備品ニ付テハ兵科士官タル兼務ノ軍需部部員、佐世保軍需部大島支庫ニ在リテハ

書記ヲ兵備品會計官吏トス

附 則

本達ハ昭和十八年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

達第二百九十五號

部外教育實施規程中左ノ通改正ス

昭和十八年十一月二十九日

海 軍 大 臣 嶋 田 繁 太 郎

第一條第一項ヲ左ノ如ク改ム

本規程ハ昭和十八年勅令第八百六十二號海軍軍事教習令ニ依ル左ノ各號ノ實施ニ關スルコトヲ規定ス

第五條第一號及第三號ヲ左ノ如ク改ム

- 一 大學及高等專門學校
 - 三 中等學校及青年學校
- 第十二條表中

達

七二九

2101